

あわら市暮らしとまちづくりに関する市民アンケート調査

調査結果

市民アンケート調査	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 調査結果のまとめ	4
4. 調査結果	8
4-1. 回答者属性等	8
4-2. 定住と移動について	15
4-3. 仕事と住まいについて	30
4-4. 結婚・出産・子育てについて	32
4-5. まちづくりについて	38
4-6. 人口減少問題について	42
アンケート調査票	50

市民アンケート調査

1. 調査の目的

あわら市における人口減少問題を見据えた今後の将来展望を検討していくに当たり、住民の定住・移住及び結婚・出産・子育て等に関する現状及び意向を把握するため、市民アンケート調査を実施した。

2. 調査概要

調査は、あわら市民 2,500 人を無作為に抽出し、郵送にり実施した。
有効回収数は 813 票、回収率は 32.5%であった。

調査概要

項目	概要
名称	・あわら市 暮らしとまちづくりに関する市民アンケート調査
調査対象	・平成 27 年 4 月 1 日現在で 20 歳以上のあわら市民 2,500 人 (無作為抽出)
配布、回収 方法	・郵送：2,500 通
調査日	【配布】 平成 27 年 7 月 24 日 (金) 発送 【回収】 平成 26 年 8 月 7 日 (金) 投函締切
送付物	・発送用封筒 長 3 封筒 (宛名ラベル貼付) 1 枚 ・調査協力のお願ひ：A 4 両面 1 枚 ・調査票 : A 3 両面 1 枚 ・返信用封筒：長 3 封筒 (市政策課行) 1 枚
回収数及 び回収率	・有効回収数：813 票 ・回収率：32.5%

アンケート配布票数及び目標回収数の設定について

アンケートの信頼性を確保するには、十分な数のサンプルを収集することが重要である。

サンプル数と誤差の関係は、当然サンプル数が少ないと誤差は大きく、サンプル数が多くなるほど誤差は少なくなるが、ある一定の数を超えると、サンプル数を大幅に増やしても誤差はほとんど変わらなくなる。

統計学的には、この「一定の数」は、目標誤差率：3～5%以内であれば良いとされており、下記の計算式であわら市（人口約3万人）における必要サンプル数を試算すると、おおむね400票の回答でこの条件を満たすことができ、すなわち有効回答票のサンプル数がこの程度であれば、住民意向の把握として十分理解を得られる値になるといえる。

一方、過去のあわら市民アンケート回収率は、H23年52.1%、H24年52.7%、H25年57.0%であり、今回アンケートの回収率を40%と安全側で設定した場合、1,000部以上の配布で信頼性のある結果が得られるといえる。

アンケート配布部数検討

1. 調査対象者（母集団）

あわら市の住民

2. 母集団（人口）

平成27年4月住民基本台帳人口 = 29,300 人

3. サンプル数の設定

項目	採用値	備考
信頼度(%)	95	統計調査では、一般的に95%を採用
信頼限界k	1.96	常数（信頼度95%の時の正規分布表による）
母比率P	0.5	通常0.5で設定（誤差率最大点）
誤差率(P-p)(%)	5	母集団（全世帯数）の回答と標本（アンケート有効回答数）の誤差。一般的に5%以下に設定する

$$\text{サンプル数} n \geq \frac{k^2 \times P(1-P)}{(P-p)^2 \times (N-1)/N + k^2 \times P(1-P)/N} = 379$$

これより、目標サンプル数は、**400** とします。

4. 配布部数の設定

過去のあわら市民アンケート回収率（H23年52.1%、H24年52.7%、H25年57.0%）より安全を見て

項目	採用値
回収率(%)	40

$$\text{配布部数} = 400 / (40/100) = 1,000 \text{ 部以上で目標サンプル数をクリア}$$

今回アンケートで2,500部を配布した場合、必要サンプル数（400票）を確保するには回収率16.0%以上が必要となる。

今回アンケート調査結果として813票の回答があり、上記の式に入れて逆算すると、誤差率は約3.4%となる。これは、例えば違う人を対象にして、今回と同じ調査を100回行った場合でも、95回（信頼度）は、その結果の誤差が±3.4%以内でしか変わらないということになる。

市民アンケート 設問構成

項目		設問	分析内容・備考		
回答者属性		・性別、年代	回答者の属性と各設問のクロス分析を実施することで、属性や地区ごとの特性を把握する 特に子育て世代や人口集積地の特性を抽出することで、今後取り組むべき施策検討の材料とする	性別、年代別の特性把握	
		・居住地		地区別の特性把握	
		・職業及び通学／勤務地(市内外)		日常の移動圏域(通勤・通学)を把握	
		・家族構成		家族構成と定住意向や仕事に関する意識等の相関を把握	
		・子どもの有無		子どもの有無と子育てに関する意向の相関を把握	
		・持ち家の状況		持ち家の状況と定住意向や仕事に関する意識等の相関を把握	
暮らし	定住と移動	・あわら市での居住期間	市への転入状況を把握するとともに、転入に当たり重視した点や定住の意向及びその理由を把握することで、現在のあわら市の“居住地としての強み／弱み”をあぶり出す	居住期間別の特性把握	
		・転入前の居住地		圏域(転入)の把握	
		・転入の理由			
		・現在の居住地を選んだ理由		あわら市の“居住地としての強み”の把握	
		・定住／移住の意向及びその理由		定住意向の把握	
		・想定する移住の理由(きっかけ)		あわら市の“居住地としての強み／弱み”の把握	
	仕事と住まい	・仕事を選ぶ際に重視する点	産業振興による定住の可能性を把握することで今後取り組むべき施策検討の材料とする	仕事を選ぶ条件として“地域”や“居住地”の優先度の把握	
		・仕事と住まいの関係に対する意識			
結婚・出産・子育て		・結婚に対する意識	結婚・出産・子育てに関する現状及び意向等を把握することで、今後取り組むべき施策検討の材料とする	既婚/結婚したい/したくない	
		・結婚に当たり想定する問題点		結婚を阻害する環境・要因の把握	
		・理想とする子供の数		出生数のポテンシャルの把握	
		・出産・子育てに当たり想定する問題点		出産・子育てを阻害する環境・要因の把握	
		・出産・子育てに当たり必要な支援		出産・子育てしやすい環境の把握	
		・結婚したくない理由		結婚を阻害する環境・要因の把握	
まちづくり	まちづくり	まちづくりや人口減少問題に対する意向等を把握することで、今後取り組むべき施策及び目指すべき将来の方向(人口ビジョン)を検討する材料とする	市の魅力向上に資する、今後取り組むべき施策の検討材料に活用		
	人口減少問題			・人口減少問題に対する意識	人口減少問題に対する住民意識の把握
				・人口減少問題に対する不安点	
				・人口減少問題に対して望む取組	
その他		・その他意見、要望等(自由回答)	設問にとらわれず、住民からさまざまなアイデアを頂くためのコメント欄(自由記述)		

3. 調査結果のまとめ

(1) 回答者属性等

- ・アンケート回答者は、男性が5割、女性が5割弱でほぼ半々、20代が1割弱、30～40代が2割強、50～60代が約5割、70代以上が約2割となる。
- ・居住地は、金津地区が約3割を占める。また温泉、北潟・浜坂、吉崎、本荘地区は他地区と比べて70代以上の回答者が多い。
- ・回答者の職業は会社員・公務員・団体職員等が最も多く、勤務地／通学地は市内が市外をわずかに上回る。市外の勤務地／通学地は坂井市や福井市など。
- ・家族構成は、親と子の世帯（二世帯）が5割弱を占める。一方、ひとり暮らしや夫婦ふたり暮らしは50～60代、次いで70代以上に多く、今後の高齢単身世帯や高齢夫婦世帯等の増加が推測される。
- ・回答者の8割弱に子どもがおり、子どもの数は平均2.05人であった。
- ・回答者の約9割が持ち家（戸建住宅）を所有している。

(2) 定住と移動について

1) 転入の状況

- ・出身は、「生まれてからずっと市内」と「市外出身の転入者」が各4割程度、「市内出身の再転入者」が約2割となる。
- ・年齢別には、「生まれてからずっと市内」は70代以上と20代、「市内出身の再転入者」は30～40代、「市外出身の転入者」は30代以上で比較的多い。
- ・居住地別には「生まれてからずっと市内」は細呂木、劔岳、伊井、北潟・浜坂地区、「市内出身の再転入者」は吉崎地区で、「市外出身の転入者」は波松、金津、温泉地区で比較的多い。
- ・転入者の直近の居住年は、「20年以上」が半数超、「10年～20年未満」と合わせた10年以上が約7割、10年未満の回答者は1/4程度となる。
- ・年齢別には、30～40代は8割が居住年「20年未満」であり、比較的最近に移住してきた層であることが伺える。
- ・居住地別には、伊井、北潟・浜坂、波松地区では「20年以上」の古い転入者が7～8割以上を占める一方、劔岳、温泉、坪江、吉崎、金津地区では「20年未満」の転入者が5～6割と比較的多くなっている。
- ・転入前の居住地は、坂井市、福井市等の県内の他市町が他都道府県をやや上回っている。県外では石川県と東京都、愛知県、大阪府及び京都府が多い。
- ・転入の理由として、「結婚または離婚」「家族、親族と同居または近くに住むため」「就職、転勤、転職」等が多く挙げられている。転入後20年以上の回答者は「結婚または離婚」、5年未満の回答者は、就職、転勤、転職や同居、近居の割合が比較的高くなっている。一人暮らしや賃貸居住者では就職、転勤、転職や生活環境上の都合を挙げる割合が比較的高い。
- ・転入の際、重視した点として、「家族や親族が近くに住んでいる」「市内に土地を所有している」「土地や住宅の価格、家賃」などが挙げられる。

2) 定住／移住の意向

- ・「これからも住み続けたい」が5割強で、「どちらかと言えば住み続けたい」と合わせて7割強を占める。定住意向は「生まれてからずっと」「市内出身の再転入者」「市外出身の転入者」の順に強い傾向がみられる。
- ・年代別には、回答者の年代が上がるほど「これからも住み続けたい」とする回答者が多くなっている。移住意向は30～40代が多く、約2割を占める。
- ・地区別には、劔岳、細呂木、本荘地区で「これからも住み続けたい」が6割を超えている。一方、吉崎地区は転出意向が比較的高くなっている。
- ・定住の理由として、「地元のつながりに愛着があるから」「気候や自然環境が良いから」「安定した収入や職があるから」などが挙げられる。再転入者を含む市内出身者は地元のつながりを、市外出身の転入者は地元のつながりのほか気候や自然環境を多く挙げている。また、市内出身の再転入者は安定した職や収入の回答割合が他より高くなっている。
- ・移住の理由として、「交通の便が悪いから」「買い物などの日常生活が不便だから」などが挙げられる。「生まれてからずっと市内」では「地元のつながりに愛着を感じないから」、「医療、福祉、介護サービスが不足しているから」など、転入者は交通や買い物などの日常生活の不便を主な理由としている。
- ・転出の主なきっかけは、若い世代では就職、結婚等、多様であるが、50～60代は退職、70歳以上は退職や同居となる。

(3) 仕事と住まいについて

- ・仕事を選ぶ際に重視する項目として、「給与、賞与等の待遇」「労働時間や休日数などの勤務条件」「家庭と仕事とのバランス」「通勤時間が短い、通勤が便利である」などが挙げられる。30～40代は「家庭と仕事とのバランス」の割合が他年代と比べ比較的高くなっている。
- ・仕事と住まいの関係に対する考え方をみると、年代の若い回答者ほど「希望する職種や仕事内容・待遇であれば、居住地にはこだわらない」を挙げる傾向にある。一方、「現在の居住地から無理なく通える範囲の仕事にこだわりたい」を挙げる回答者は30～50代で多い。

(4) 結婚・出産・子育てについて

- ・結婚に対する意識は、既婚者を除き、「できる限り結婚したい」が最も多く、次いで「必ず結婚したい」となる。
- ・結婚に当たっての問題点として、「親との同居や扶養」「結婚資金、生活資金の確保」「職業や仕事の問題」などが挙げられる。既婚者は「親との同居や扶養」の割合が高くなる一方、未婚者では「結婚資金、生活資金の確保」「異性との出会いがない」等の割合が高くなる。
- ・理想とする子供の数は、平均2.51人となる。既婚者の理想とする子どもの数は2.53人であり、これは実際の子どもの数(2.08人)を上回る。
- ・出産・子育てに当たっての問題点として、「出産や子育てにお金がかかりすぎる」「仕事との両立が困難」「安心して出産ができる設備のある病院が少ない」などが挙げられる。子どもなしの回答者では「出産や子育てに関する情報が入手しにくい」、子どもありの回答者では「配偶者やパートナーの協力が不十分」「保育所、保育サービスが不十分」「子どもや子

ども連れが外出しにくい環境」などが他と比べ高くなる。

- ・出産・子育てに必要な支援として、「出産や子育てのための経済的な支援」「産婦人科や小児科の医療体制、施設の充実」「出産や子育てに関する情報提供や相談の場の提供」などが挙げられる。子どもありの回答者では「保育所、保育サービスの整備・充実」などの割合も比較的高くなる。
- ・結婚しない理由として、「一人のほうが行動や生き方が自由である」が最も多く、次いで「金銭的に余裕が持てる」が挙げられる。

(5) まちづくりについて

1) まちづくりに不足していると感じるもの

- ・まちづくりに不足していると感じるものとして、「スーパーや商店などの商業施設」「娯楽やスポーツ・レジャー施設」「電車、バスなどの公共交通」「雇用の場」などが挙げられる。
- ・市内出身の再転入者では、雇用の場、市外出身の転入者では、商業、交通、医療等の生活利便施設の不足を挙げる割合が比較的高くなっている。「生まれてからずっと市内」では、「医療サービス」や「農林業への支援や振興」も比較的多く挙げられる。
- ・居住地別では、「電車、バスなどの公共交通」が吉崎地区で特に高くなっている。山方・里方地区、本荘地区、新郷地区では「雇用の場」を、温泉地区、伊井地区、劔岳地区では「スーパーや商店などの商業施設」を、金津地区では「娯楽やスポーツ・レジャー施設」を挙げる割合が高くなっている。
- ・年代区分別では、若い層で「娯楽やスポーツ・レジャー施設」を、50代以上で「雇用の場」を、70代以上で「福祉介護サービス」を、20代と70代以上で「電車やバスなどの公共交通」を挙げる割合が高い。

(6) 人口減少問題について

- ・将来の人口減少問題について、「不安である」及び「非常に不安である」をあわせて回答者の3/4が不安を感じている。
- ・出身別で最も不安を感じる層の割合が大きいのは、「市内出身の再転入者」、次いで「生まれてからずっと」「市外出身の転入者」となる。
- ・居住地別では、北潟・浜坂、新郷、劔岳地区で不安を感じる層の割合が8割を超え、他の地区でも6~8割が不安を感じている。年代別では、高齢の年代ほど不安と感じる層の割合は高く、「非常に不安である」と感じる割合は50~60代で最も高くなっている。
- ・人口減少問題の不安の内容として、「人がいなくなり地域の活力が低下する」「空き家が増加して地域がさびれていく」「年金など社会保障制度が立ち行かなくなる」「働き手がいなくなり産業や経済が落ち込む」といった項目が多く挙げられる。
- ・居住地別では、劔岳地区で「人がいなくなり地域の活力が低下」、波松地区で「空き家が増加」、吉崎地区で「公共交通が廃止」の割合が特に高くなっている。
- ・年代別では、「年金など社会保障制度が立ち行かなくなる」は60代以下、特に20代での割合が高くなっている。
- ・人口減少問題への対応に必要な取組として、「企業誘致」「若い世代の就職支援」「地域産業の振興」「結婚、出産、子育ての切れ目のない支援」などが挙げられる。

- ・居住地別では、新郷地区や剣岳地区では結婚、出産、子育て支援や学校教育環境の充実、波松地区では雇用対策や企業誘致、吉崎地区では交通整備や医療・介護・福祉サービスの充実を挙げる割合が比較的高くなっている。
- ・年若い世代は就職支援や結婚、出産、子育て支援、年齢の高い層は、医療・介護・福祉サービスや移動しやすい交通環境などを挙げる割合が比較的高くなっている。

4. 調査結果

4-1. 回答者属性等

(1) 性別・年齢

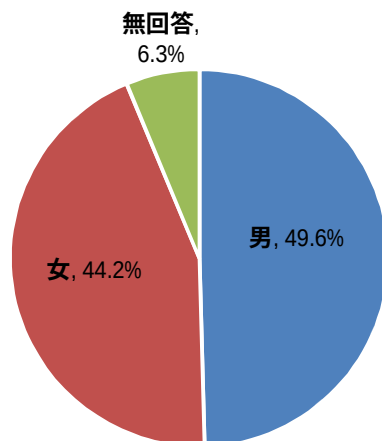
回答者の性別は、男性 49.6%、女性が 44.2%、無回答 6.3%となる。

回答者の年齢は、60代が 246 人 (30.3%) と最も多く、次いで 50代 (165 人、20.3%)、70代以上 (149 人、18.3%) となる。

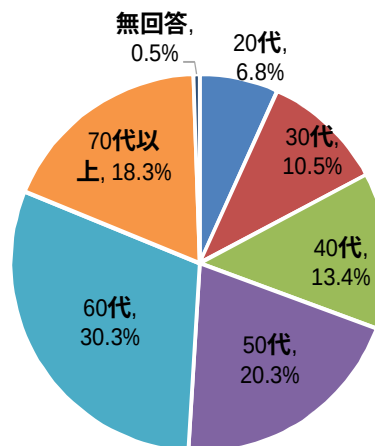
50～60代がおおむね半数を占める一方、20代は1割未満となっている。

性別			年代							
性別	回答数(人)	割合(%)	年代	回答数(人)				割合(%)	年代区分	
				男	女	無回答	合計		回答数(人)	割合(%)
男	403	49.6%	20代	24	30	1	55	6.8%	55	6.8%
女	359	44.2%	30代	49	35	1	85	10.5%	194	23.9%
無回答	51	6.3%	40代	66	42	1	109	13.4%		
総計	813	100.0%	50代	92	66	7	165	20.3%		
			60代	116	113	17	246	30.3%	411	50.6%
			70代以上	56	72	21	149	18.3%	149	18.3%
			無回答	0	1	3	4	0.5%	4	0.5%
			総計	403	359	51	813	100.0%	813	100.0%

性別割合



年代割合



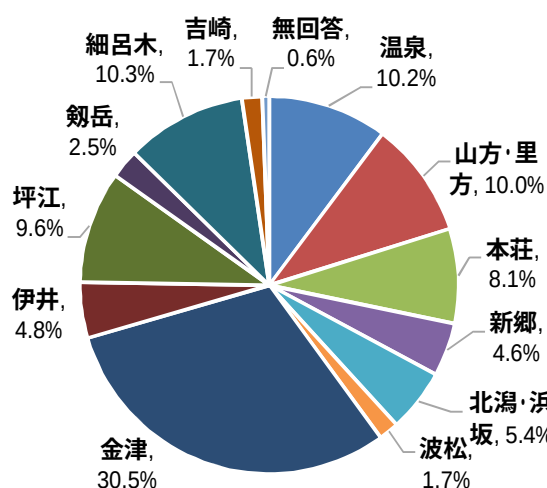
(2) 居住地

回答者の居住地は、金津地区が最も多く 248 人、30.5%を占める。次いで、細呂木地区（84 人、10.3%）、温泉地区（83 人、10.2%）、山方・里方地区（81 人、10.0%）、その他の地区はいずれも 10%未満となる。

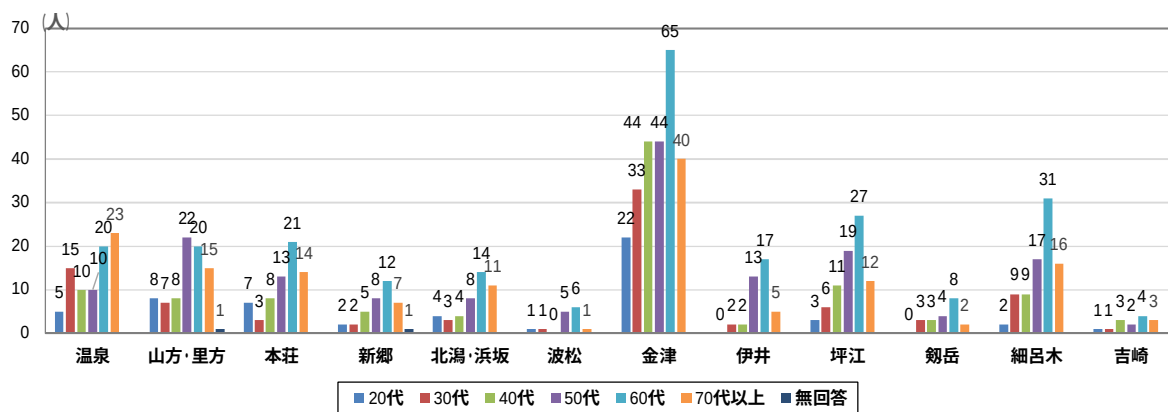
居住地別の年代別回答者をみると、大半の地区で 60 代が最も多くなっている。一方、温泉地区は 70 代以上、山方・里方地区では 50 代が最も多くなっている。温泉地区、北潟・浜坂地区、吉崎地区、本荘地区では 70 代以上の回答者の割合が他地区と比べ多くなっている。

居住地

居住地	回答数(人)	割合(%)
温泉	83	10.2%
山方・里方	81	10.0%
本荘	66	8.1%
新郷	37	4.6%
北潟・浜坂	44	5.4%
波松	14	1.7%
金津	248	30.5%
伊井	39	4.8%
坪江	78	9.6%
劔岳	20	2.5%
細呂木	84	10.3%
吉崎	14	1.7%
無回答	5	0.6%
総計	813	100.0%



居住地別年代別回答者数、割合



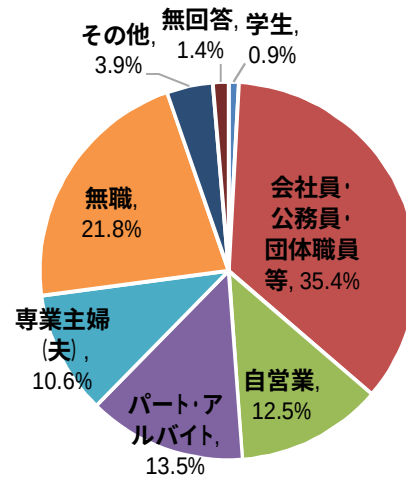
居住地	割合(%)							総計
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	
温泉	6.0%	18.1%	12.0%	12.0%	24.1%	27.7%	0.0%	100.0%
山方・里方	9.9%	8.6%	9.9%	27.2%	24.7%	18.5%	1.2%	100.0%
本荘	10.6%	4.5%	12.1%	19.7%	31.8%	21.2%	0.0%	100.0%
新郷	5.4%	5.4%	13.5%	21.6%	32.4%	18.9%	2.7%	100.0%
北潟・浜坂	9.1%	6.8%	9.1%	18.2%	31.8%	25.0%	0.0%	100.0%
波松	7.1%	7.1%	0.0%	35.7%	42.9%	7.1%	0.0%	100.0%
金津	8.9%	13.3%	17.7%	17.7%	26.2%	16.1%	0.0%	100.0%
伊井	0.0%	5.1%	5.1%	33.3%	43.6%	12.8%	0.0%	100.0%
坪江	3.8%	7.7%	14.1%	24.4%	34.6%	15.4%	0.0%	100.0%
劔岳	0.0%	15.0%	15.0%	20.0%	40.0%	10.0%	0.0%	100.0%
細呂木	2.4%	10.7%	10.7%	20.2%	36.9%	19.0%	0.0%	100.0%
吉崎	7.1%	7.1%	21.4%	14.3%	28.6%	21.4%	0.0%	100.0%
無回答	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	40.0%	100.0%
総計	6.8%	10.5%	13.4%	20.3%	30.3%	18.3%	0.5%	100.0%

(3) 職業及び勤務地／通学地

回答者の職業は、会社員・公務員・団体職員等が 288 人（35.4%）と最も多く、次いで無職（177 人、21.8%）、パート・アルバイト（110 人、13.5%）、自営業（102 人、12.5%）等と続く。

職業

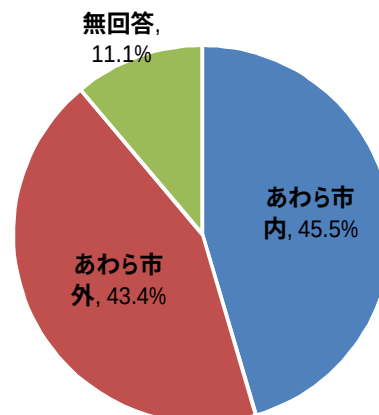
職業	回答数 (人)	割合 (%)
学生	7	0.9%
会社員・公務員・団体職員等	288	35.4%
自営業	102	12.5%
パート・アルバイト	110	13.5%
専業主婦 (夫)	86	10.6%
無職	177	21.8%
その他	32	3.9%
無回答	11	1.4%
総計	813	100.0%



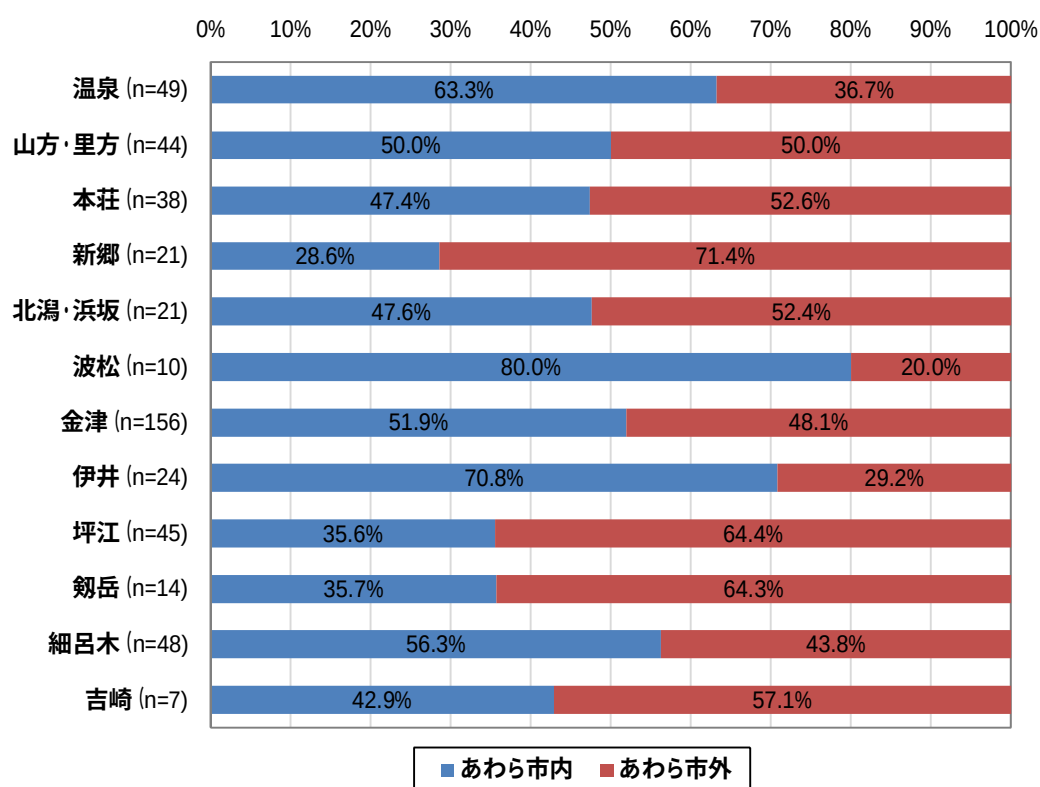
学生および職業を持つ回答者の勤務地／通学地は、あわら市内が 245 人（45.5%）、あわら市外が 234 人（43.4%）で市内がわずかに上回っている。居住地別にみると、波松地区、伊井地区、温泉地区、細呂木地区、金津地区では市内が市外を上回っている。山方・里方地区では市内外が同数、その他の地区で市外が市内を上回っている。

勤務地／通学地

勤務地/通勤地	回答数 (人)	割合 (%)
あわら市内	245	45.5%
あわら市外	234	43.4%
無回答	60	11.1%
総計	539	100.0%



居住地別勤務地／通学地割合



※居住地不詳及び無回答を除く

市外の勤務地／通学地

市外の勤務地／通学地として、坂井市（111 人）が最も多く挙げられるほか、福井市（85 人）、加賀市（12 人）など近隣市が中心となっている。

通勤地/通学地	回答者(人)
坂井市	111
福井市	85
石川県加賀市	12
石川県金沢市	4
永平寺町	3
大野市	2
石川県小松市	2
鯖江市	1
越前市	1
東京都	1
京都市	1
石川県野々市市	1
石川県	1
愛知県豊田市	1

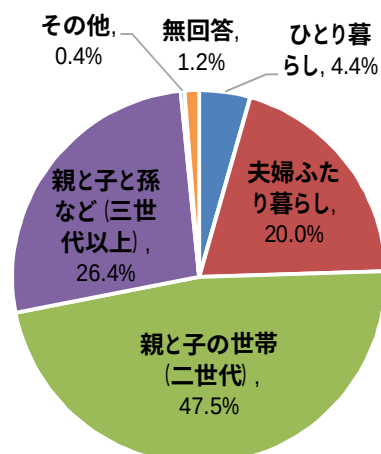
(4) 家族構成

回答者の家族構成は、親と子の世帯（二世帯）が 386 人（47.5%）と最も多く、次いで親と子と孫など（三世帯以上）（215 人、26.4%）、夫婦ふたり暮らし（163 人、20.0%）となる。

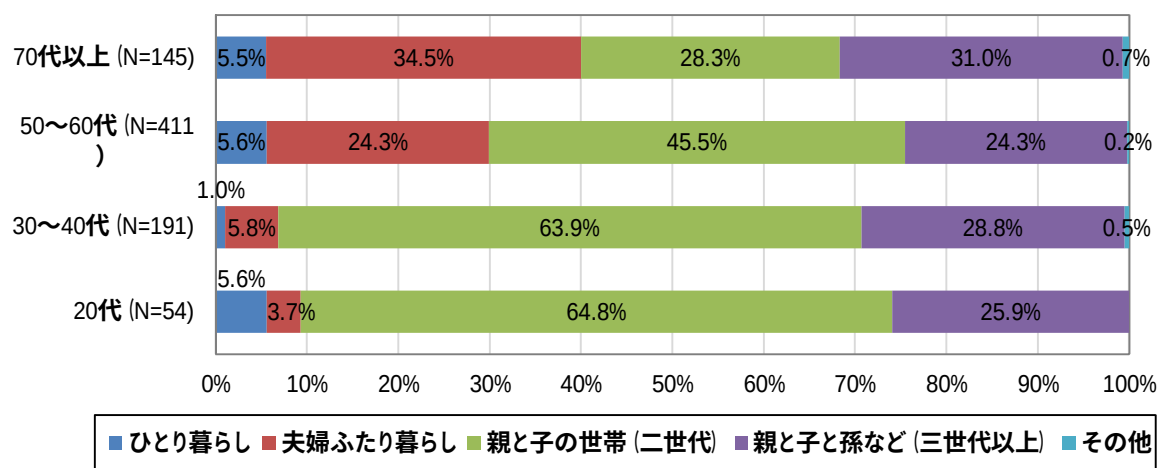
年代区分別の家族構成をみると、30～40 代は親と子の世帯（二世帯）が最も多くなる一方、70 代以上では夫婦ふたり暮らしが最も多く、ひとり暮らしとあわせ 4 割を占めている。

家族構成

家族構成	回答数(人)	割合(%)
ひとり暮らし	36	4.4%
夫婦ふたり暮らし	163	20.0%
親と子の世帯(二世帯)	386	47.5%
親と子と孫など(三世帯以上)	215	26.4%
その他	3	0.4%
無回答	10	1.2%
総計	813	100.0%



年代区分別家族構成割合



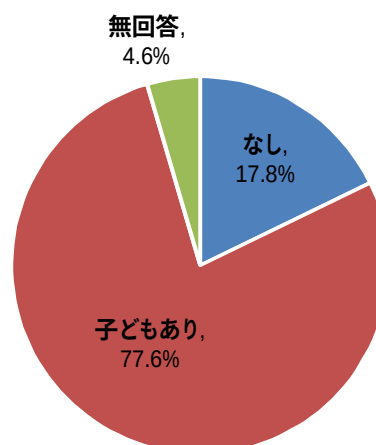
※年代不詳及び無回答を除く

(5) 子どもの有無

回答者の子どもの有無をみると、子どもありが631人(77.6%)となり、子どもなしが145人(17.8%)となる。

子どもの有無

子どもの有無	回答数(人)	割合(%)
なし	145	17.8%
子どもあり	631	77.6%
無回答	37	4.6%
総計	813	100.0%

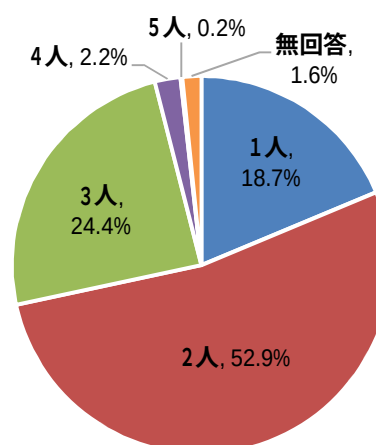


子どもがある回答者の子どもの数は、2人が334人(52.9%)と最も多くなる。次いで3人(154人、24.4%)、1人(118人、18.7%)となり、平均は2.05人となる。

年代区分別の子どもの数をみると、年齢が上がるにつれ、1人の割合が減り、3人以上の割合が増える傾向にある。70代以上では子ども3人の回答者が約3割を占める。

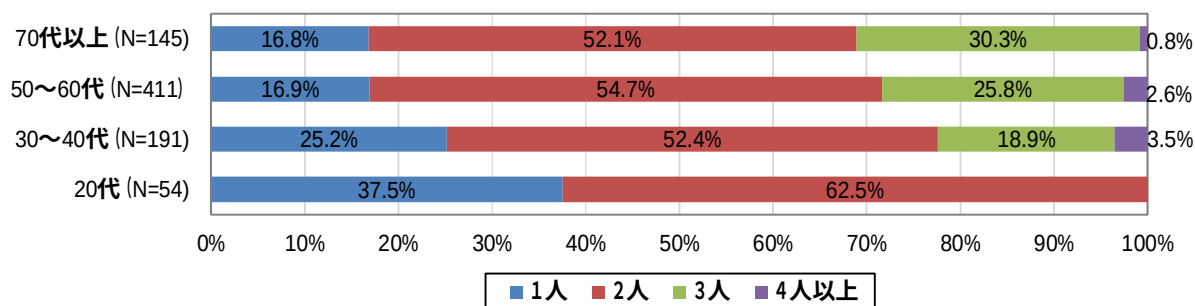
子どもの数

子どもの人数	回答数(人)	割合(%)
1人	118	18.7%
2人	334	52.9%
3人	154	24.4%
4人	14	2.2%
5人	1	0.2%
無回答	10	1.6%
総計	631	100.0%
平均※	2.05	



※平均は人数無回答を除いて算出

年代区分別子どもの数割合



※年代不詳及び無回答を除く

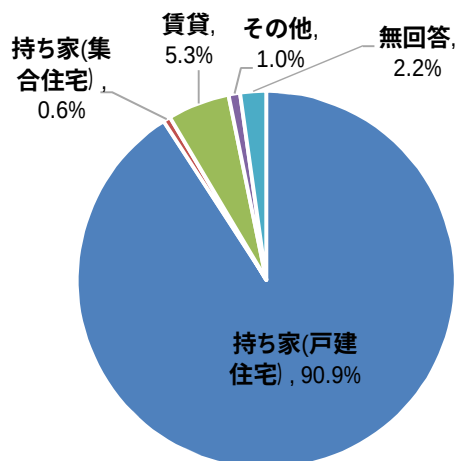
(6) 持ち家の状況

回答者の持ち家の状況は、持ち家（戸建住宅）が739人（90.9%）と大多数を占める。

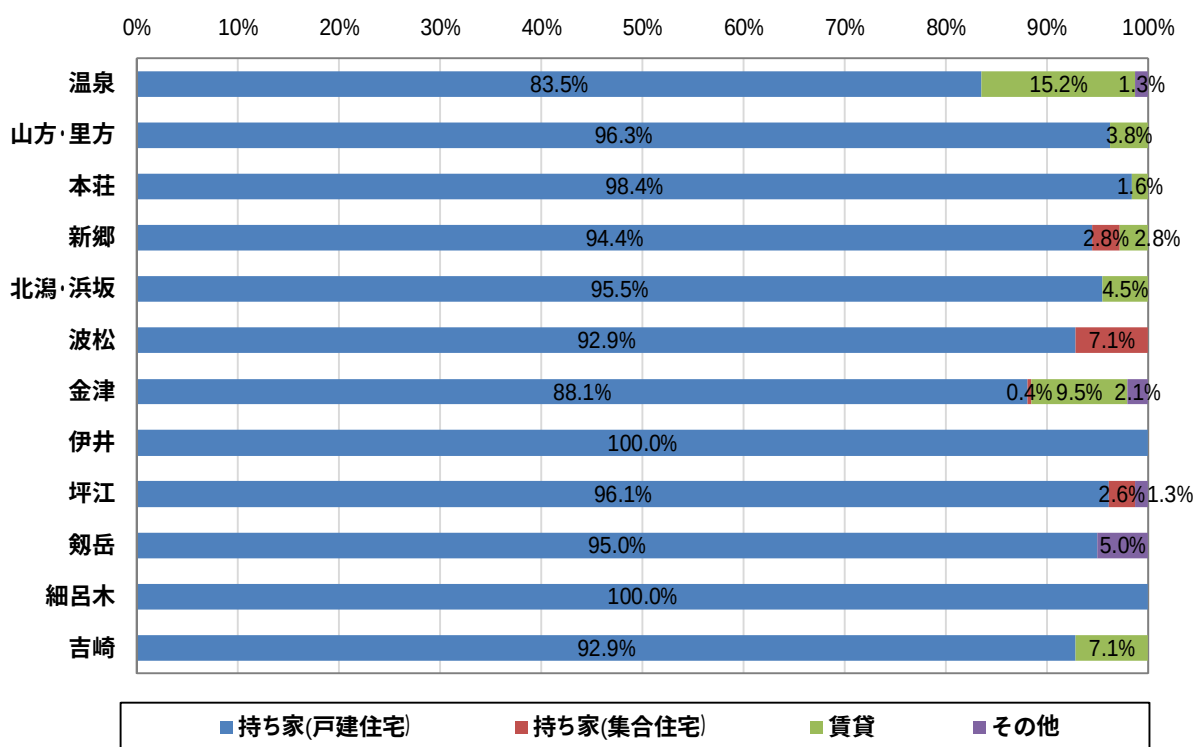
賃貸は、回答者全体で43人（5.3%）となるが、居住地別にみると温泉地区で15.2%、金津地区で9.5%、吉崎地区で7.1%と比較的高い一方、その他の地区では持ち家の回答者割合が95%を超え、賃貸の回答者は少ない。

持ち家の状況

住まい	回答数(人)	割合(%)
持ち家(戸建住宅)	739	90.9%
持ち家(集合住宅)	5	0.6%
賃貸	43	5.3%
その他	8	1.0%
無回答	18	2.2%
総計	813	100.0%



居住地別持ち家の状況割合



※居住地不詳及び無回答を除く

4-2. 定住と移動について

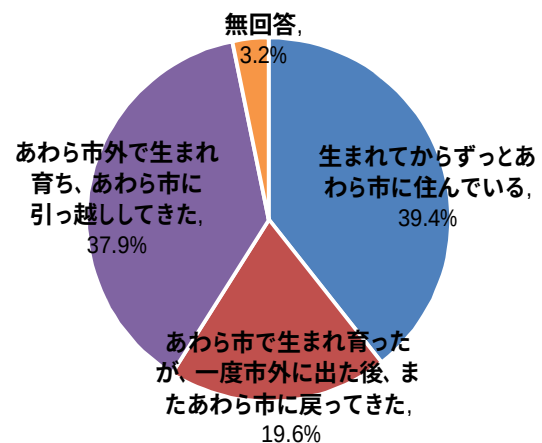
(1) 出身

回答者の出身は、「生まれてからずっとあわら市に住んでいる」が320人、39.4%と最も多く、次いで「あわら市外で生まれ育ち、あわら市に引っ越ししてきた」(308人、37.9%)となり、これらを合わせて8割弱を占める。また「あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた」は159人(19.5%)となる。

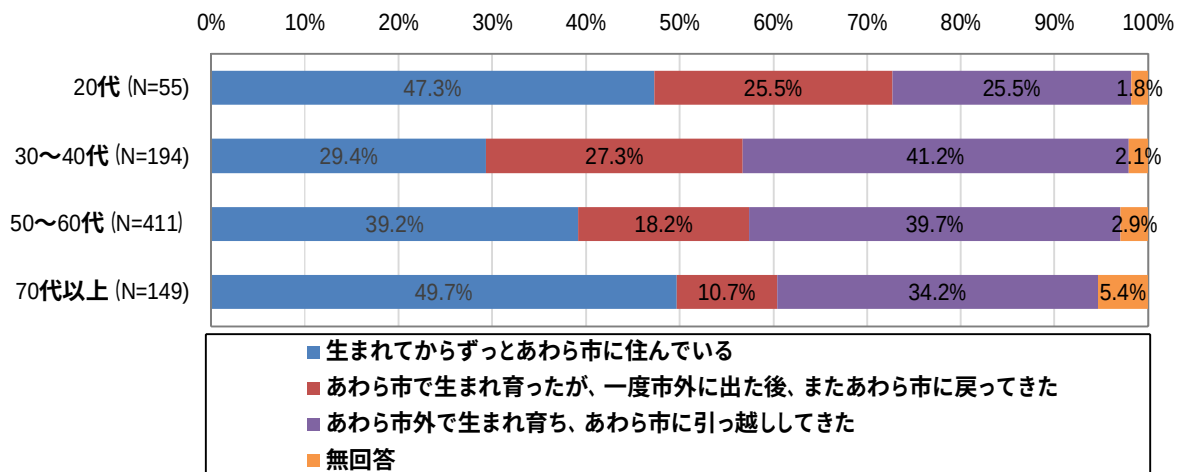
年代別にみると「生まれてからずっとあわら市に住んでいる」は70代以上と20代で比較的多く、「あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた」や「あわら市外で生まれ育ち、あわら市に引っ越ししてきた」は30～40代などで比較的多い。

出身

出身	回答数(人)	割合(%)
生まれてからずっとあわら市に住んでいる	320	39.4%
あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた	159	19.6%
あわら市外で生まれ育ち、あわら市に引っ越ししてきた	308	37.9%
無回答	26	3.2%
総計	813	100.0%



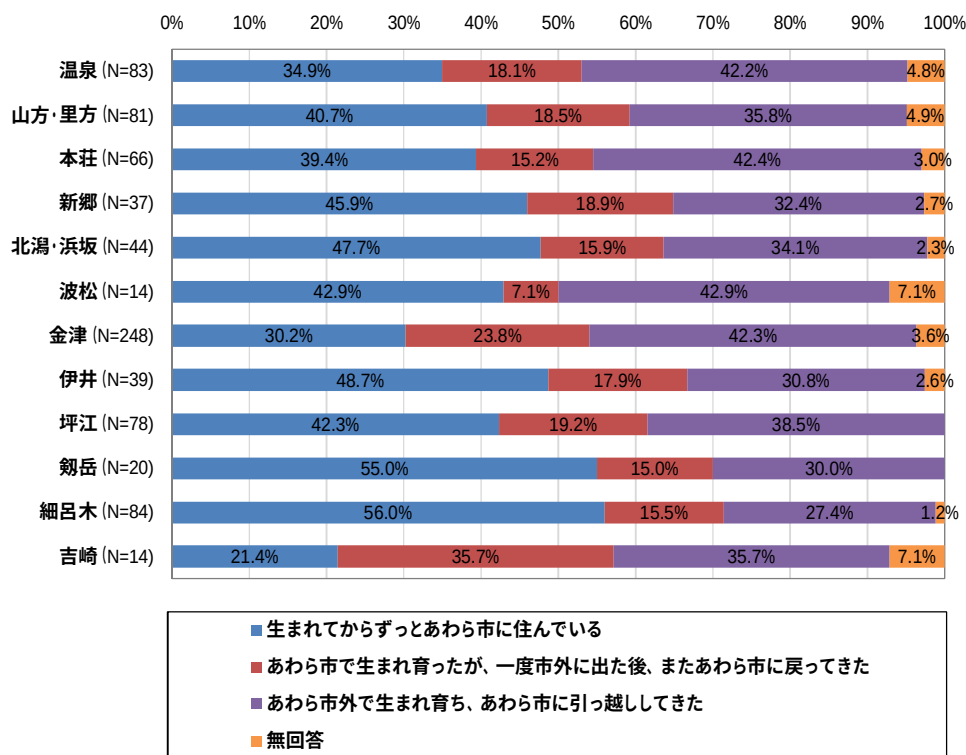
年代別の出身割合



※年代不詳を除く

地区別にみると細呂木地区、劔岳地区、伊井地区、北潟・浜坂地区は「生まれてからずっとあわら市に住んでいる」が半数前後を占め多くなっている。一方、波松地区、金津地区、温泉地区は、「あわら市外で生まれ育ち、あわら市に引っ越ししてきた」が比較的多い。あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた」は、吉崎地区で比較的多くなっている。

地区別の出身割合



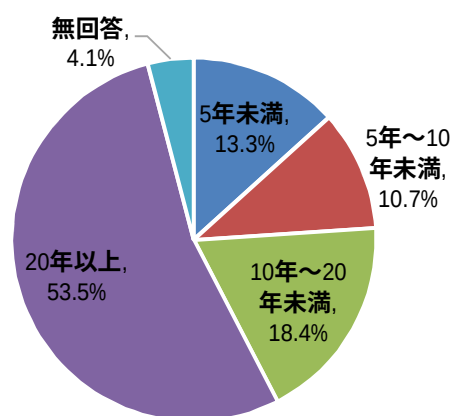
※居住地不詳を除く

(2) 居住年

あわら市の外から引っ越ししてきた人の直近の居住年は、「20 年以上」が 250 人（53.5%）と最も多く、次いで「10 年～20 年未満」（86 人、18.4%）となり、これらを合わせて約 7 割を占める。また 10 年未満の回答者は合わせて 24.0%となる。

直近の居住年

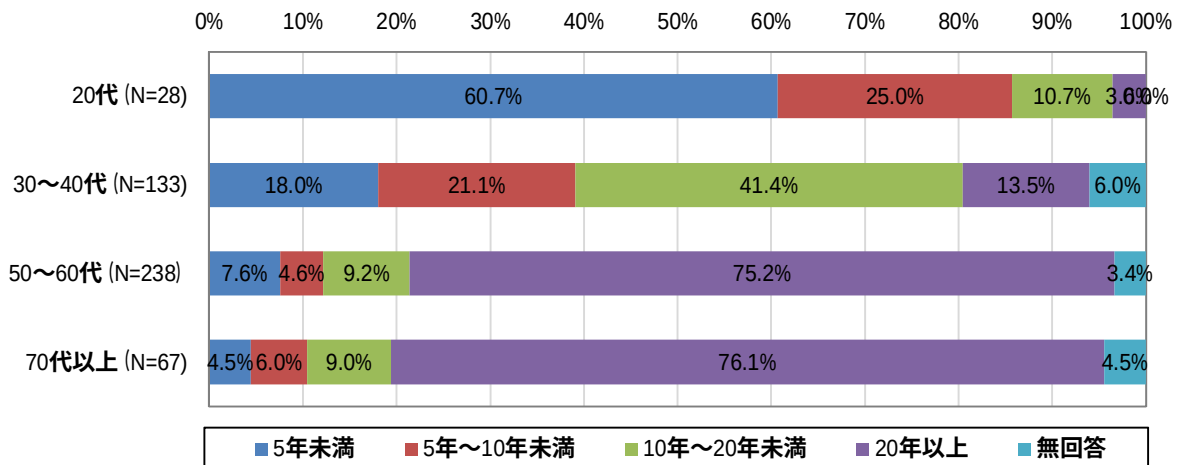
直近の居住年	回答数 (人)	割合 (%)
5年未満	62	13.3%
5年～10年未満	50	10.7%
10年～20年未満	86	18.4%
20年以上	250	53.5%
無回答	19	4.1%
総計	467	100.0%



年代別でみると、20代では「5年未満」と「5～10年」が8割以上を占め、30～40代では、「10～20年未満」が4割を占めている。50代以上では20年以上が7割を超える。

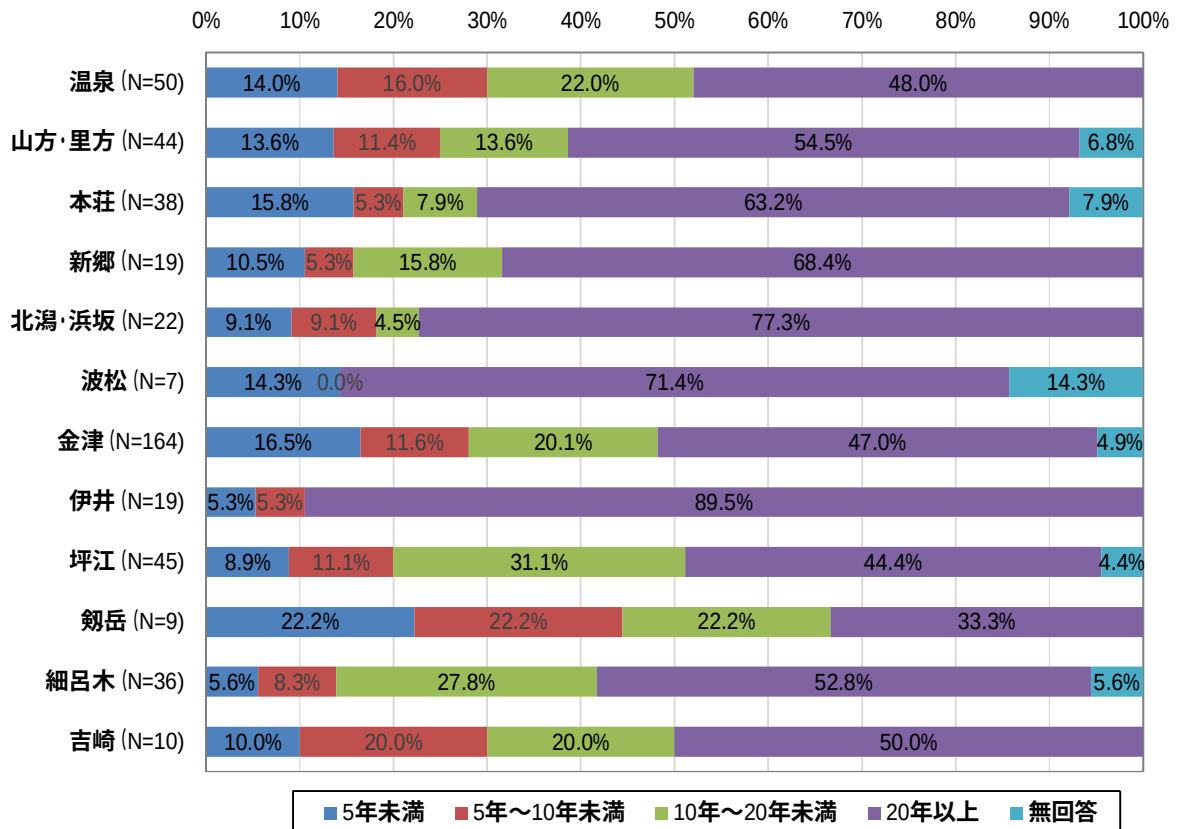
居住地別では、伊井地区、北潟・浜坂地区、波松地区で「20年以上」が7～8割以上を占める。一方、劔岳地区、温泉地区、坪江地区、吉崎地区では20年未満が5割を超え比較的多くなっている。

年代別の直近の居住年



※年代不詳を除く

居住地別の直近の居住年



※居住地不詳を除く

(3) 以前の居住地

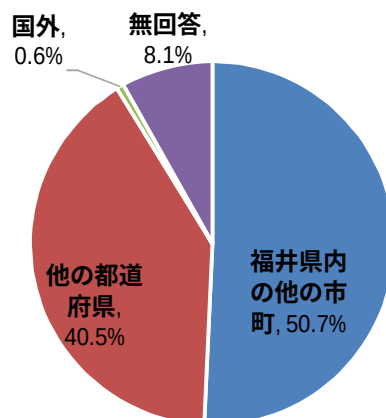
あわら市に転入した回答者の以前の居住地は、「福井県内の他の市町」が 237 人（50.7%）と最も多く、次いで「他の都道府県」（189、40.5%）となる。

居住年別で見た場合、居住年数が 5 年以上では「福井県内の他の市町」からの転入の割合が「他の都道府県」からの転入の割合を上回るが、5 年未満では「他の都道府県」からの転入が「福井県内の他の市町」からの転入を上回っている。

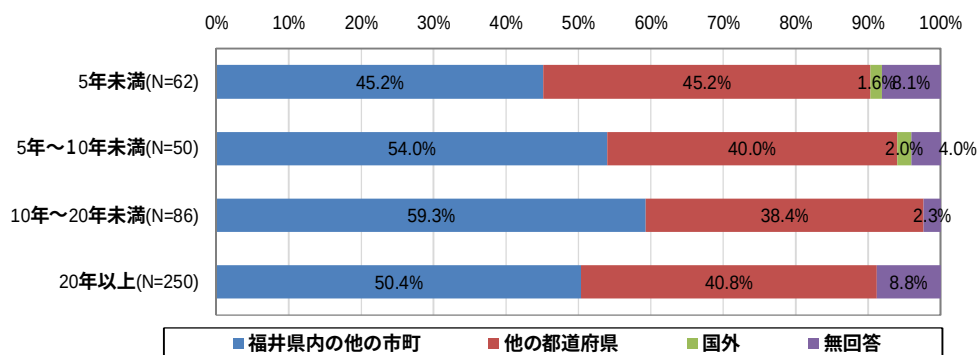
具体的な以前の居住地は、県内では坂井市、福井市等の近隣市町が多く挙げられ、また県外では近隣の石川県と東京都、愛知県、大阪府及び京都府の大都市圏が多く挙げられている。

以前の居住地

以前の居住地	回答数 (人)	割合 (%)
福井県内の他の市町	237	50.7%
他の都道府県	189	40.5%
国外	3	0.6%
無回答	38	8.1%
総計	467	100.0%



居住年別以前の居住地割合



※居住年不詳を除く

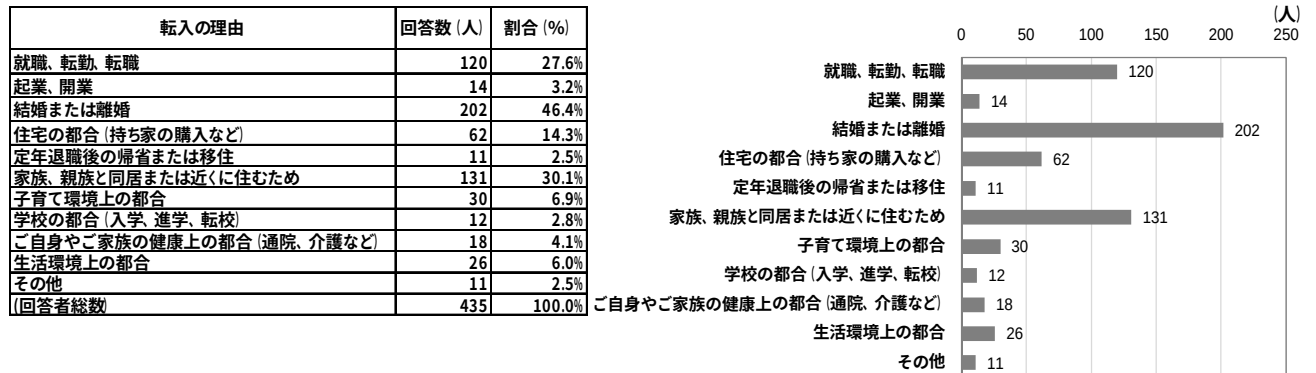
以前の居住地（具体地名）（上位 10 位）

県内	回答数 (人)	県外	回答数 (人)
坂井市	97	石川県	35
福井市	91	東京都	27
鯖江市	12	愛知県	20
越前市	11	大阪府	19
敦賀市	7	京都府	17
永平寺町	7	富山県	8
勝山市	4	神奈川県	7
大野市	3	埼玉県	6
池田町	2	岐阜県	6
		兵庫県	5

(4) 転入の理由

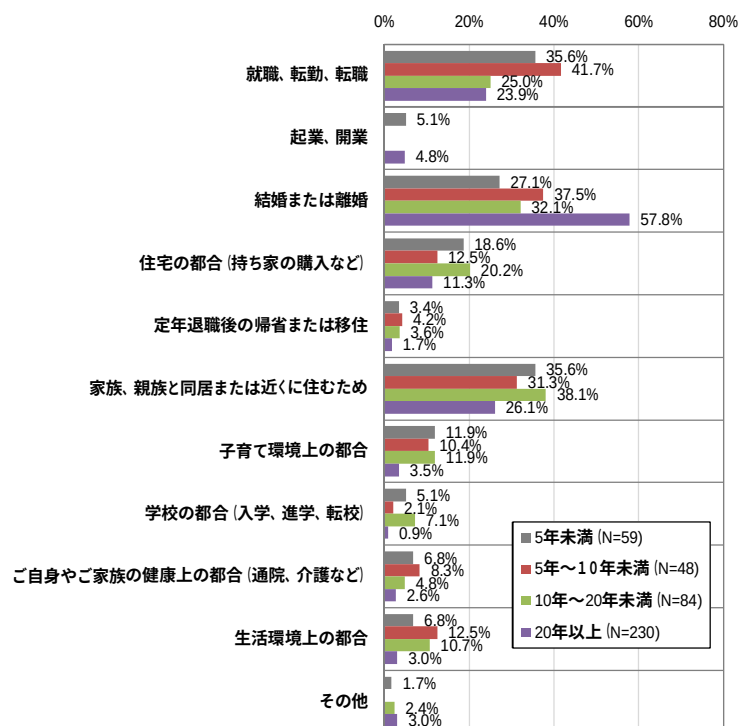
あわら市への転入の理由として、「結婚または離婚」が202人(46.4%)と最も多く、次いで「家族、親族と同居または近くに住むため」(131人、30.1%)、「就職、転勤、転職」(120人、27.6%)となる。

転入の理由（複数回答、回答者総数に占める割合）



居住年別転入の理由（回答者総数に占める割合）

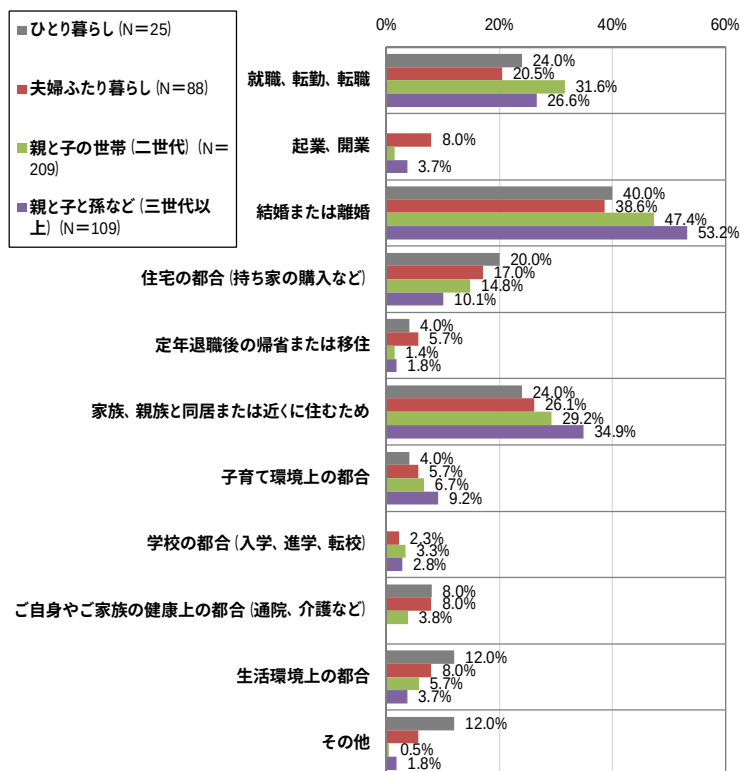
居住年別の転入の理由をみると、20年以上前に転入した回答者は「結婚または離婚」が57.8%と突出して多くなっている。一方5年未満の回答者は「結婚または離婚」「家族、親族と同居または近くに住むため」及び「就職、転勤、転職のため」の割合が同数で比較的多くなっている。



※居住年不詳を除く

家族構成別の転入の理由をみると、三世代以上同居の回答者は「結婚または離婚」及び「家族、親族と同居または近くに住むため」の割合が比較的高くなっている。一方、ひとり暮らしの回答者は「結婚または離婚」のほか、「就職、転勤、転職のため」「生活環境上の都合」の割合が比較的高くなっている。

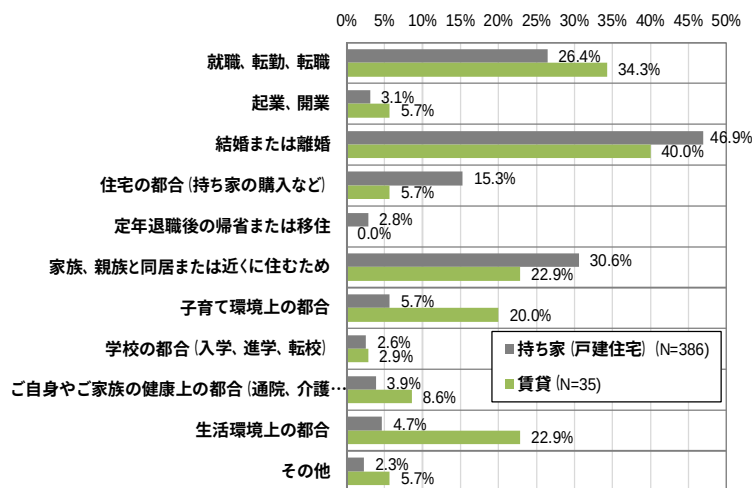
家族構成別転入の理由（回答者総数に占める割合）



※家族構成不詳、家族構成その他を除く

持ち家状況別の転入の理由をみると、持ち家（戸建住宅）の回答者は「結婚または離婚のため」「家族、親族と同居または近くに住むため」等のほか、「住宅の都合（持ち家の購入など）」の割合が比較的高くなっている。一方、賃貸の回答者は「就職、転勤、転職のため」「生活環境上の都合」「子育て上の都合」の割合が比較的高くなっている。

持ち家状況別転入の理由（回答者総数に占める割合）



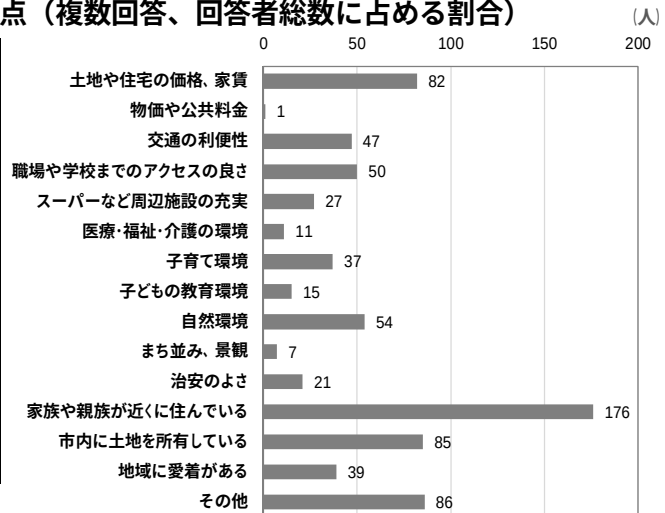
※持ち家状況不詳、サンプル数の少ない持家(集合住宅)、その他を除く

(5) 転入の際、重視した点

あわら市に転入する際、重視した点として、「家族や親族が近くに住んでいる」が 176 人 (44.0%) と最も多く、次いで「市内に土地を所有している」(85 人、21.3%)、「土地や住宅の価格、家賃」(82 人、20.5%) 等となる。また、その他としては、『(結婚や介護等での)同居や家を継ぐためであり選択の余地がない』等の理由が挙げられた。

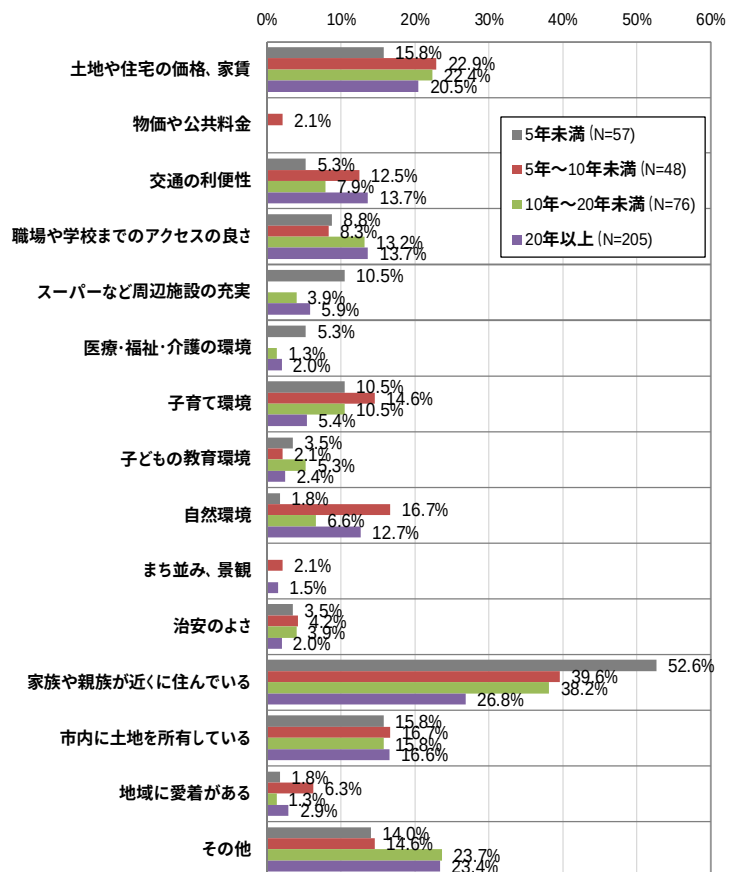
転入の際重視した点 (複数回答、回答者総数に占める割合)

転入の際重視した点	回答数 (人)	割合 (%)
土地や住宅の価格、家賃	82	20.5%
物価や公共料金	1	0.3%
交通の利便性	47	11.8%
職場や学校までのアクセスの良さ	50	12.5%
スーパーなど周辺施設の充実	27	6.8%
医療・福祉・介護の環境	11	2.8%
子育て環境	37	9.3%
子どもの教育環境	15	3.8%
自然環境	54	13.5%
まち並み、景観	7	1.8%
治安のよさ	21	5.3%
家族や親族が近くに住んでいる	176	44.0%
市内に土地を所有している	85	21.3%
地域に愛着がある	39	9.8%
その他	86	21.5%
(回答者総数)	400	100.0%



居住年別転入の際、重視した点 (回答者総数に占める割合)

居住年別の転入の際、重視した点をみると、居住年に関わらず「家族や親族が近くに住んでいる」の割合が高いが、5 年未満の回答者では特に高くなっている。



※居住年不詳を除く

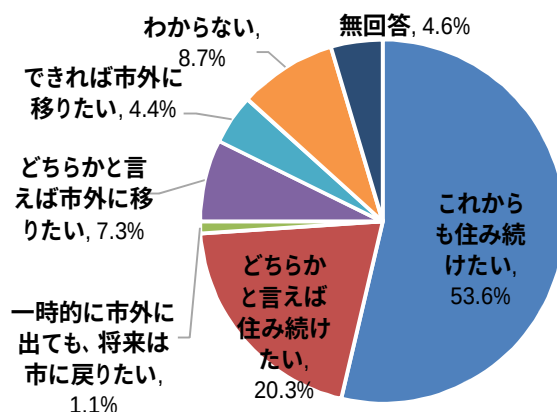
(6) 定住／移住の意向

1) 定住／移住の意向

回答者の定住／移住の意向は、「これからも住み続けたい」が436人(53.6%)と最も高く、次いで「どちらかと言えば住み続けたい」(165人、20.3%)となる。「一時的に市外に出ても、将来は市に戻りたい」(9人、1.1%)と合わせた定住意向者は610人(75.0%)となる。一方、移住意向者は95人(11.7%)となり、「どちらかと言えば市外に移りたい」(59人、7.3%)が「できれば市外に移りたい」(36人、4.4%)を上回っている。

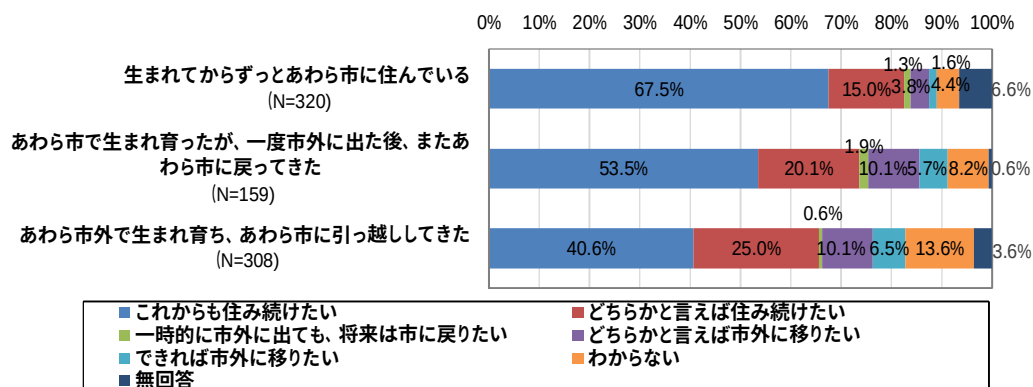
定住／移住の意向

定住／移住意向	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
これからも住み続けたい	436	53.6%	610	75.0%
どちらかと言えば住み続けたい	165	20.3%		
一時的に市外に出ても、将来は市に戻りたい	9	1.1%		
どちらかと言えば市外に移りたい	59	7.3%	95	11.7%
できれば市外に移りたい	36	4.4%		
わからない	71	8.7%	71	8.7%
無回答	37	4.6%	37	4.6%
総計	813	100.0%	813	100.0%



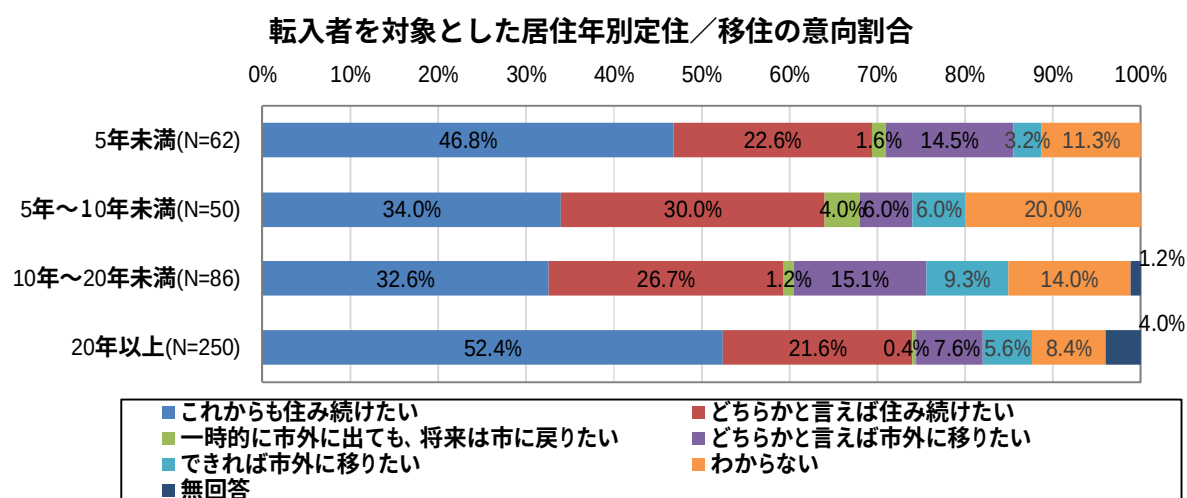
出身別の定住／移住意向をみると、「これからも住み続けたい」、また「これからも住み続けたい」「どちらかと言えば住み続けたい」を合わせた割合は「生まれてからずっとあわら市に住んでいる」、「あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた」、「あわら市外で生まれ育ち、あわら市に引っ越ししてきた」の順となっている。

出身別定住／移住の意向割合



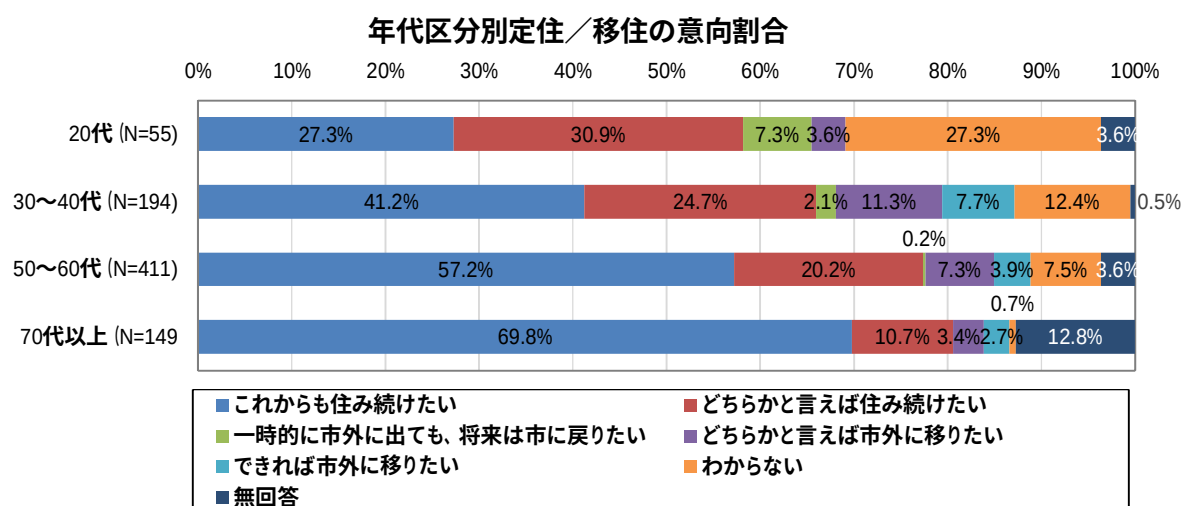
※出身不詳を除く

転入者についての居住年別の定住／移住意向をみると、20 年以上では「これからも住み続けたい」とする回答者が過半を占め、20 年未満の回答者についても、「これからも住み続けたい」「どちらかと言えば住み続けたい」を合わせた定住意向のある回答者が 6～7 割を占めている。10～20 年未満の回答者では、「どちらかといえば市外に移りたい」の割合が比較的高くなっている。



※居住年不詳を除く

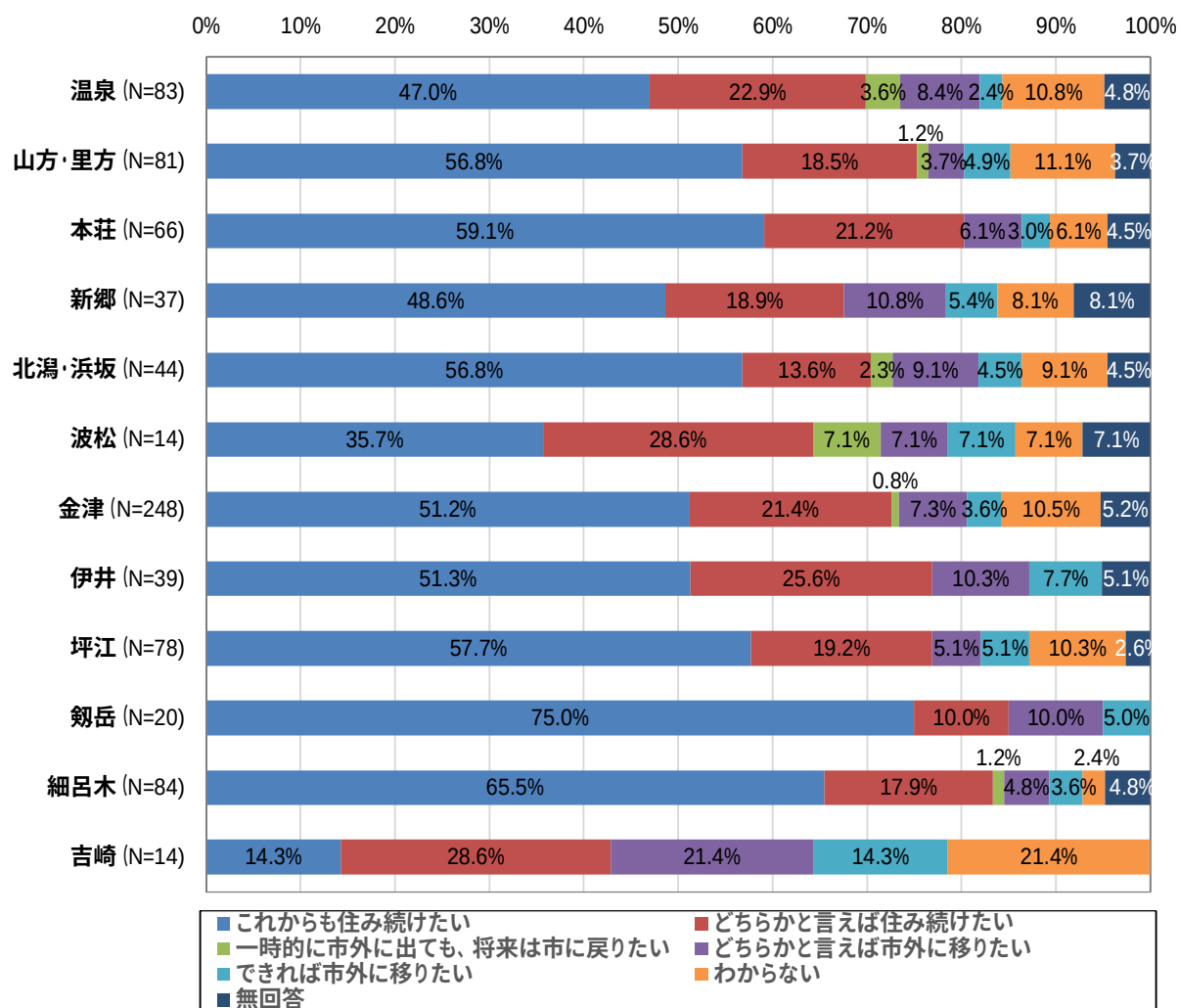
年代区分別の定住／移住意向をみると、年代が上がるほど「これからも住み続けたい」とする回答者の割合が高くなる傾向にある。移住意向は 30～40 代が多く、約 2 割を占める。20 代は「わからない」も多い。



※年代不詳を除く

居住地別の定住／移住意向をみると、劔岳地区、細呂木地区、本荘地区等で「これからも住み続けたい」とする回答者の割合が特に高く、約 6 割を超えている。吉崎地区は転出意向が比較的高くなっている。

居住地別定住／移住の意向割合



※居住地不詳を除く

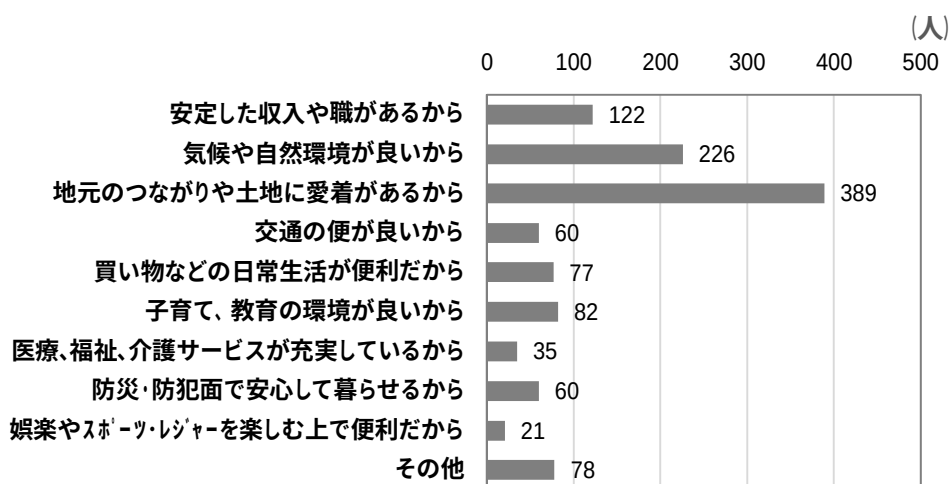
2) 定住の理由

定住の意向を示す回答者に定住の理由を尋ねたところ、「地元のつながりに愛着があるから」が389人(65.8%)と最も多く挙げられ、次いで「気候や自然環境が良いから」(226人、38.2%)、「安定した収入や職があるから」(122人、20.6%)などが挙げられる。

またその他の回答として、『自分の土地や住宅がある』『住み慣れた環境を変えたくない』などが挙げられる。

定住の理由（複数回答、回答者総数に占める割合）

定住の理由	回答数(人)	割合(%)
安定した収入や職があるから	122	20.6%
気候や自然環境が良いから	226	38.2%
地元のつながりや土地に愛着があるから	389	65.8%
交通の便が良いから	60	10.2%
買い物などの日常生活が便利だから	77	13.0%
子育て、教育の環境が良いから	82	13.9%
医療、福祉、介護サービスが充実しているから	35	5.9%
防災・防犯面で安心して暮らせるから	60	10.2%
娯楽やスポーツ・レジャーを楽しむ上で便利だから	21	3.6%
その他	78	13.2%
(回答者総数)	591	100.0%

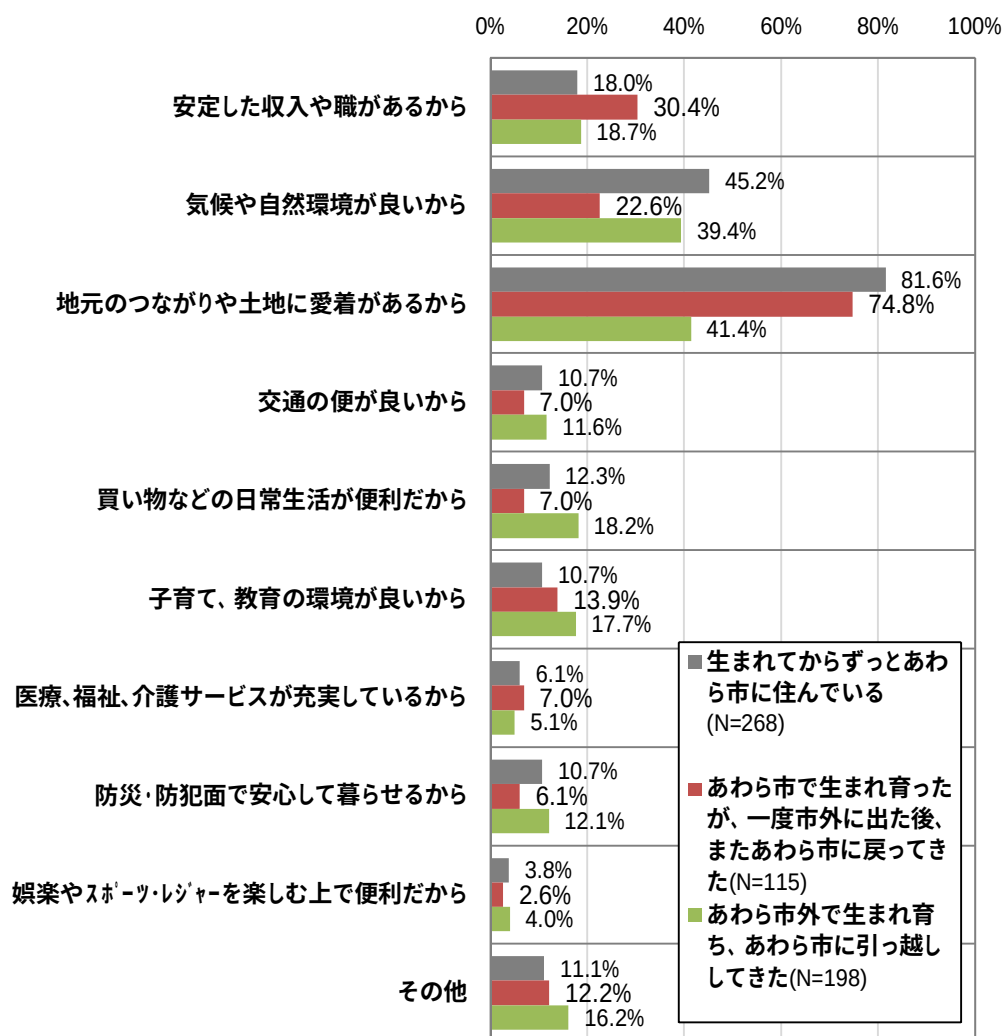


【その他の主な意見】

- ・自分の土地、家があるので
- ・先祖代々の土地、家を守るため
- ・親が住んでいる、生まれ育ったところだから
- ・住み慣れた環境を変えたくないため

出身別の定住の理由をみると、「生まれてからずっとあわら市に住んでいる」回答者は、「地元のつながりに愛着があるから」及び「気候や自然環境が良いから」の割合が高くなっている。「あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた」回答者は「地元のつながりに愛着があるから」「安定した収入や職があるから」を挙げる割合が高く、「あわら市外で生まれ育ち、あわら市の引っ越してきた」回答者は、「地元のつながりに愛着があるから」のほか、「気候や自然環境が良いから」を挙げる割合が比較的高くなっている。

出身別定住の理由（回答者総数に占める割合）



※出身不詳を除く

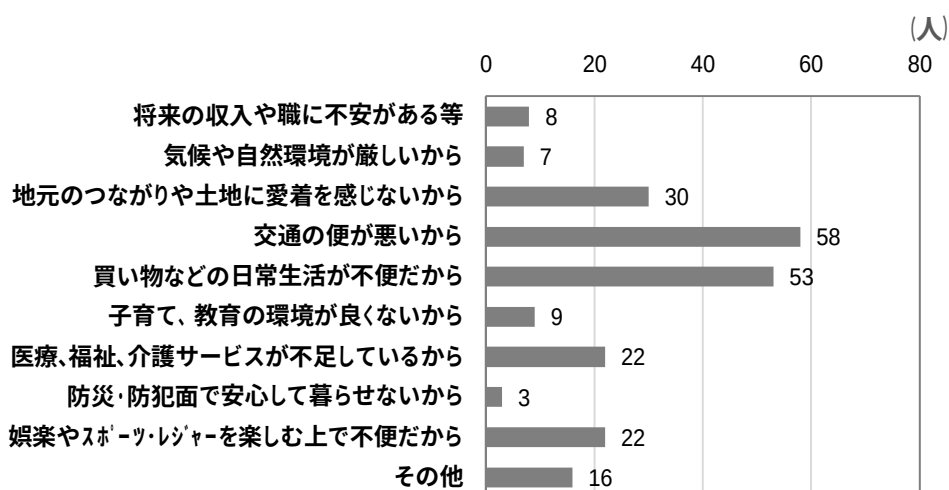
3) 移住の理由

移住の意向を示す回答者に移住の理由を尋ねたところ、「交通の便が悪いから」が 58 人 (61.1%) と最も多く挙げられ、次いで「買い物などの日常生活が不便だから」(53 人、55.8%) などが挙げられる。

またその他の回答として、『税金、公共料金、家賃が高いから』『衰退し、魅力がないから、都会に住みたい』などが挙げられる。

移住の理由（複数回答、回答者総数に占める割合）

移住の理由	回答数 (人)	割合 (%)
将来の収入や職に不安がある等	8	8.4%
気候や自然環境が厳しいから	7	7.4%
地元のつながりや土地に愛着を感じないから	30	31.6%
交通の便が悪いから	58	61.1%
買い物などの日常生活が不便だから	53	55.8%
子育て、教育の環境が良くないから	9	9.5%
医療、福祉、介護サービスが不足しているから	22	23.2%
防災・防犯面で安心して暮らせないから	3	3.2%
娯楽やスポーツ・レジャーを楽しむ上で不便だから	22	23.2%
その他	16	16.8%
(回答者総数)	95	100.0%

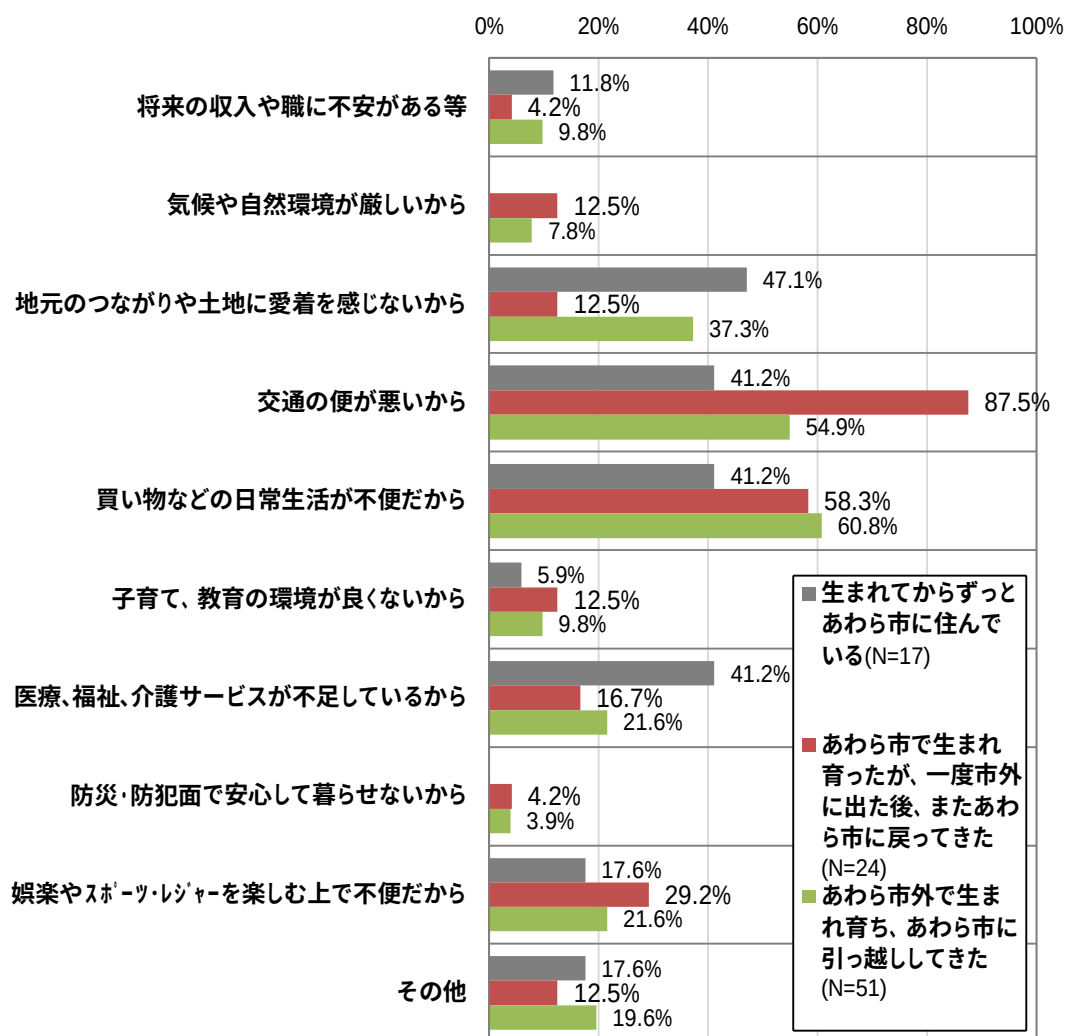


【その他の主な意見】

- ・税金、公共料金、家賃が高いから
- ・衰退し、魅力がないから、都会に住みたい

出身別の移住の理由をみると、「生まれてからずっとあわら市に住んでいる」回答者は、「地元のつながりに愛着を感じないから」の割合が高く、「医療、福祉、介護サービスが不足しているから」も他と比べ高くなっている。「あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた」回答者は「交通の便が悪いから」を挙げる割合が突出して高い。「あわら市外で生まれ育ち、あわら市の引っ越してきた」回答者は、「買い物などの日常生活が不便だから」「交通の便が不便だから」を主な理由としている。

居住年別移住の理由（回答者総数に占める割合）



※出身不詳を除く

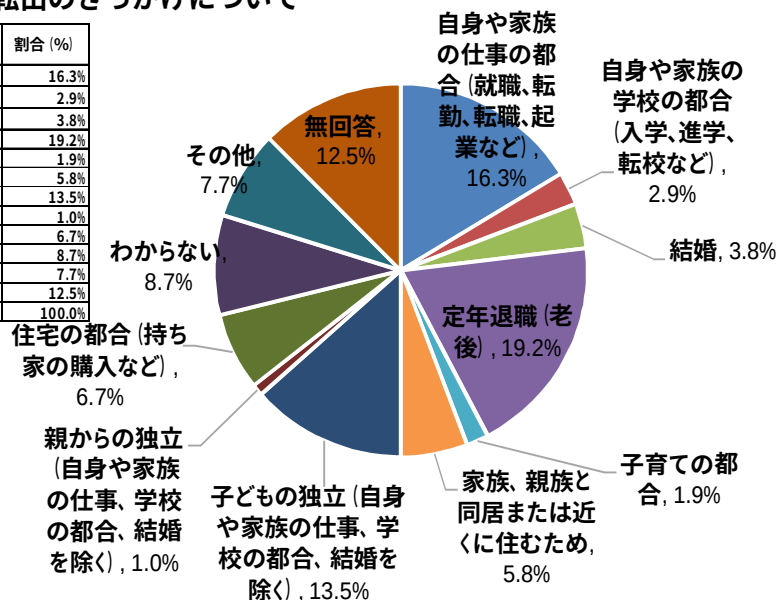
(7) 転出のきっかけについて

一時的を含めた転出意向を示す回答者に移住の理由を尋ねたところ、「定年退職（老後）」が20人（19.2%）と最も多く、次いで「自身や家族の仕事の都合（就職、転勤、転職、起業など）」が17人（16.3%）、「子どもの独立（自身や家族の仕事、学校の都合、結婚を除く）」（14人、13.5%）などが挙げられる。

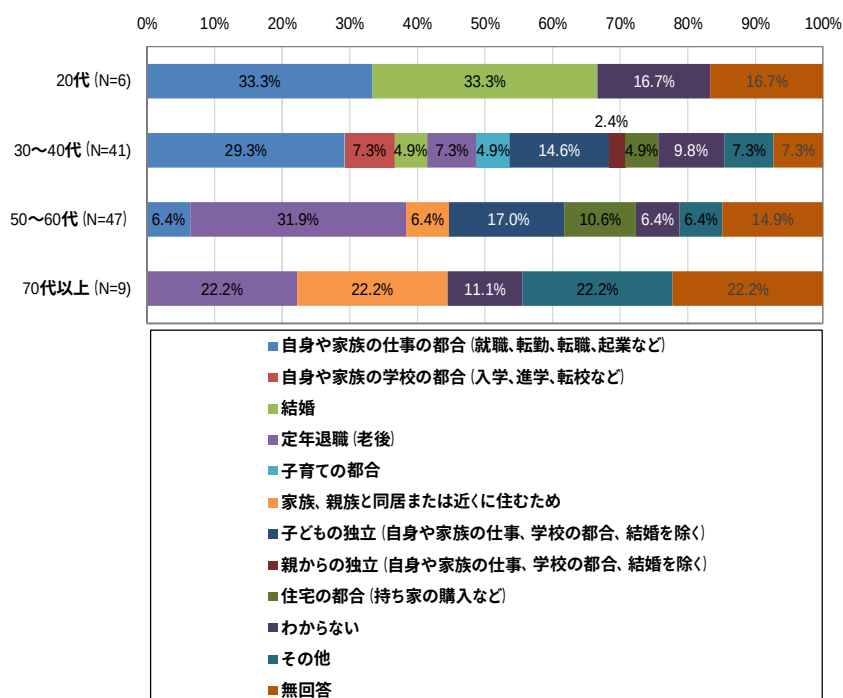
若い世代では自身や家族の就職、結婚、30～40代は多様なきっかけ、50～60代は定年退職、70歳以上は定年退職や同居といった回答の割合が大きくなっている。

転出のきっかけについて

転出のきっかけ	回答数(人)	割合(%)
自身や家族の仕事の都合(就職、転勤、転職、起業など)	17	16.3%
自身や家族の学校の都合(入学、進学、転校など)	3	2.9%
結婚	4	3.8%
定年退職(老後)	20	19.2%
子育ての都合	2	1.9%
家族、親族と同居または近くに住むため	6	5.8%
子どもの独立(自身や家族の仕事、学校の都合、結婚を除く)	14	13.5%
親からの独立(自身や家族の仕事、学校の都合、結婚を除く)	1	1.0%
住宅の都合(持ち家の購入など)	7	6.7%
わからない	9	8.7%
その他	8	7.7%
無回答	13	12.5%
総計	104	100.0%



年代別の転出のきっかけについて



※年代不詳を除く

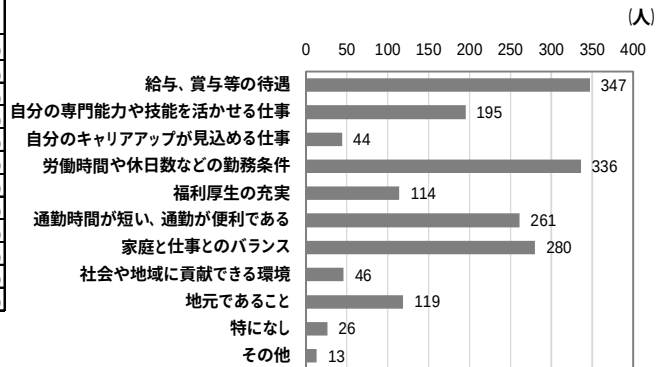
4-3. 仕事と住まいについて

(1) 仕事を選ぶ際に重視する項目

仕事を選ぶ際に重視する項目として、「給与、賞与等の待遇」が347人(50.4%)と最も多く挙げられ、次いで「労働時間や休日数などの勤務条件」(336人、48.8%)、「家庭と仕事とのバランス」(280人、40.7%)、「通勤時間が短い、通勤が便利である」(261人、37.9%)などが挙げられる。

仕事を選ぶ際に重視する項目（複数回答、回答者総数に占める割合）

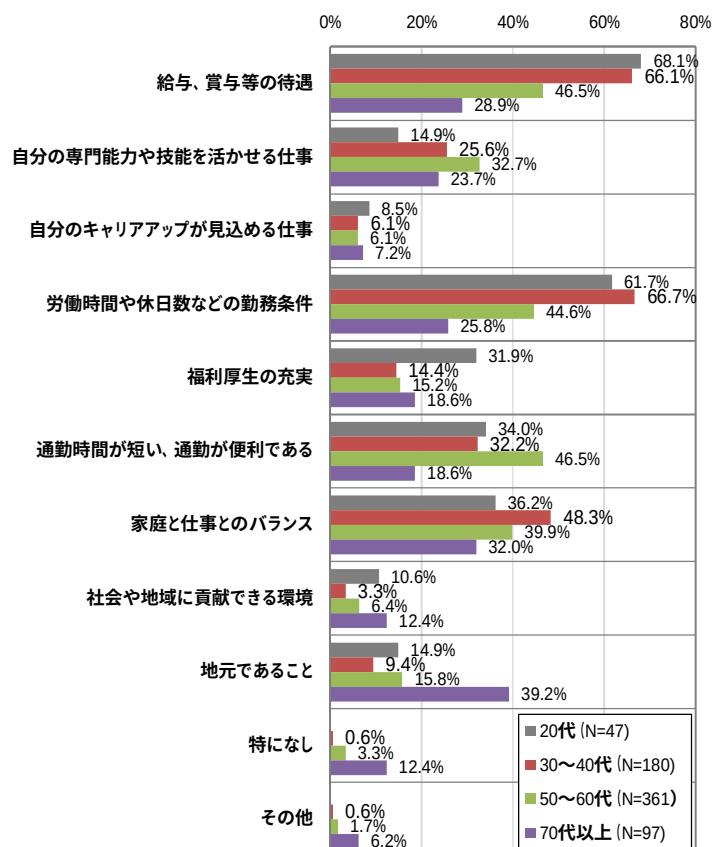
仕事を選ぶ際に重視する項目	回答数(人)	割合(%)
給与、賞与等の待遇	347	50.4%
自分の専門能力や技能を活かせる仕事	195	28.3%
自分のキャリアアップが見込める仕事	44	6.4%
労働時間や休日数などの勤務条件	336	48.8%
福利厚生が充実	114	16.6%
通勤時間が短い、通勤が便利である	261	37.9%
家庭と仕事とのバランス	280	40.7%
社会や地域に貢献できる環境	46	6.7%
地元であること	119	17.3%
特になし	26	3.8%
その他	13	1.9%
(回答者総数)	688	100.0%



年代区分別の仕事の重視項目を見ると、30～40代は「家庭と仕事とのバランス」の割合が他年代と比べ比較的高くなっている。

また、50～60代は「自分の専門能力や技能を活かせる仕事」及び「通勤時間が短い、通勤が便利である」の割合が他年代と比べ比較的高くなっている。70代は「地元であること」の割合が高い。

年代区分別仕事を選ぶ際に重視する項目
(回答者総数に占める割合)



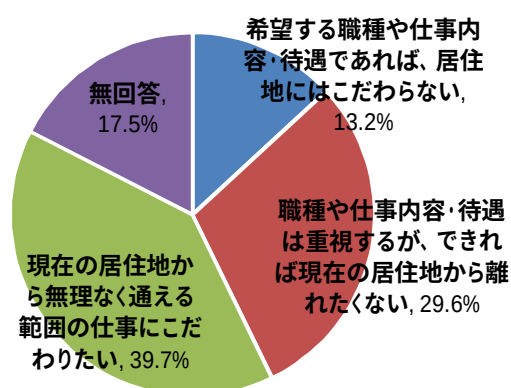
※年代不詳を除く

(2) 仕事と住まいの関係

仕事と住まいの関係に対する考え方について、「現在の居住地から無理なく通える範囲の仕事にこだわりたい」が 323 人 (39.7%) と最も多く、次いで「職種や仕事内容・待遇は重視するが、できれば現在の居住地から離れたくない」(241 人、29.6%)、「希望する職種や仕事内容・待遇であれば、居住地にはこだわらない」(107 人、13.2%)となる。

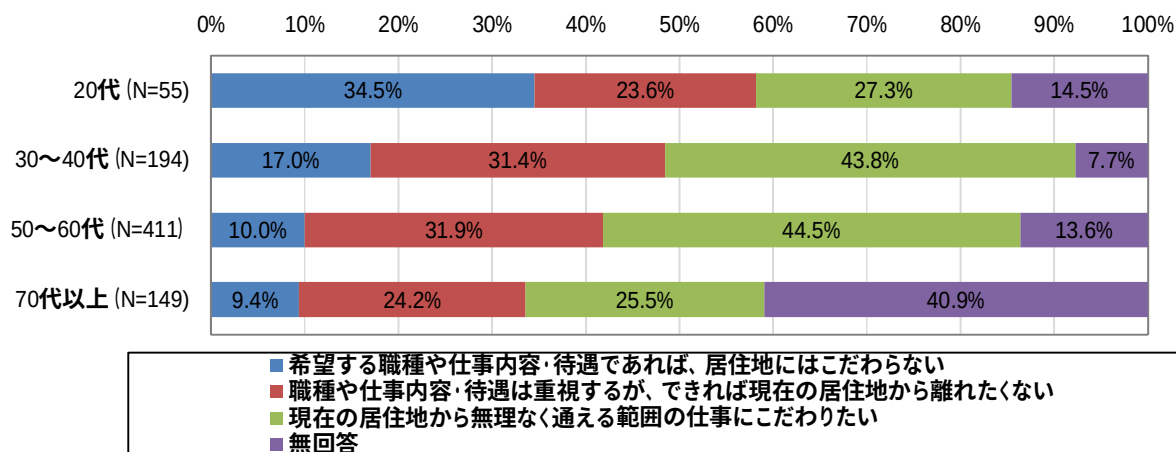
仕事と住まいの関係

仕事と住まいの関係	回答数 (人)	割合 (%)
希望する職種や仕事内容・待遇であれば、居住地にはこだわらない	107	13.2%
職種や仕事内容・待遇は重視するが、できれば現在の居住地から離れたくない	241	29.6%
現在の居住地から無理なく通える範囲の仕事にこだわりたい	323	39.7%
無回答	142	17.5%
総計	813	100.0%



年代区分別の仕事と住まいの関係に対する考え方をみると、若い回答者ほど「希望する職種や仕事内容・待遇であれば、居住地にはこだわらない」を挙げる割合が高くなる。40～50代、30～40代は、「現在の居住地から無理なく通える範囲の仕事にこだわりたい」を挙げる割合が高い。

年代区分別仕事と住まいの関係割合



※年代不詳及び無回答を除く

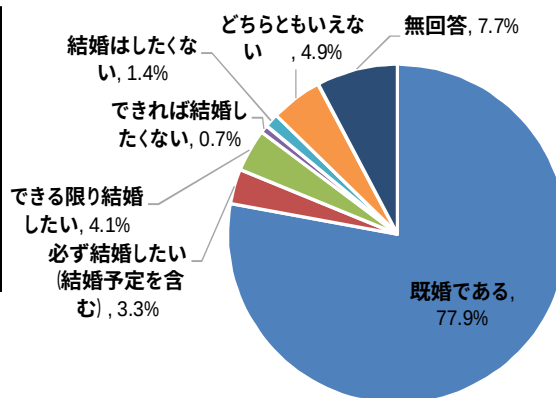
4-4. 結婚・出産・子育てについて

(1) 結婚に対する意識

回答者の結婚に対する意識は、既婚者（633人、77.9%）を除き、「できる限り結婚したい」（33人、4.1%）が最も多く、次いで「必ず結婚したい」（27人、3.3%）となる。一方、結婚を積極的に望まない層は「できれば結婚したくない」（6人、0.7%）、「結婚はしたくない」（11人、1.4%）となる。回答者における未婚者の結婚希望割合は51.3%となる。

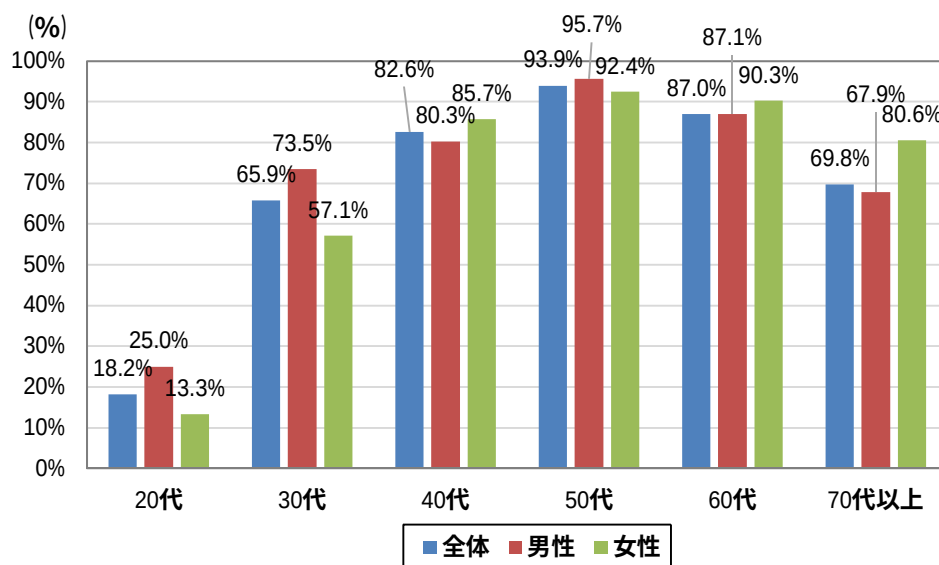
結婚について

結婚について	回答数(人)	割合(%)
既婚である	633	77.9%
必ず結婚したい(結婚予定を含む)	27	3.3%
できる限り結婚したい	33	4.1%
できれば結婚したくない	6	0.7%
結婚はしたくない	11	1.4%
どちらともいえない	40	4.9%
無回答	63	7.7%
総計	813	100.0%



回答者の既婚率は、20代18.2%、30代65.9%、40代82.6%、50代93.9%、60代87.0%、70代以上69.8%となり、50代の既婚率が最も高い。性別では、30代以下と50代は女性より男性、40代と60代以上は男性より女性の既婚率が高くなっている。

性別年代別既婚率※



※全回答者に占める「既婚である」と答えた回答者の割合

(2) 結婚に当たっての問題点

回答者が経験または想定する結婚に当たっての問題点として、「親との同居や扶養」が362人(52.4%)と最も多く、次いで「結婚資金、生活資金の確保」(311人、45.0%)、「職業や仕事上の問題」(248人、35.9%)などが挙げられる。

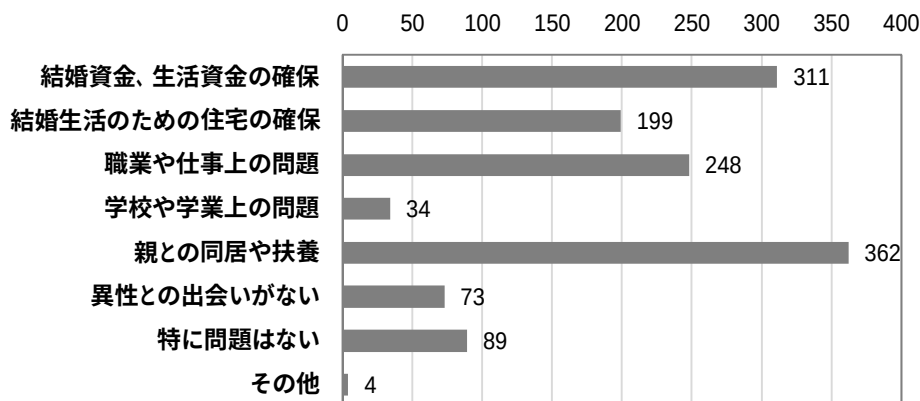
既婚・未婚別では、既婚者は「親との同居や扶養」の割合が高くなる一方、未婚者では「結婚資金、生活資金の確保」の割合が高く、「異性との出会いがない」の割合も比較的高くなる。

結婚に当たっての問題点（複数回答、回答者総数に占める割合）

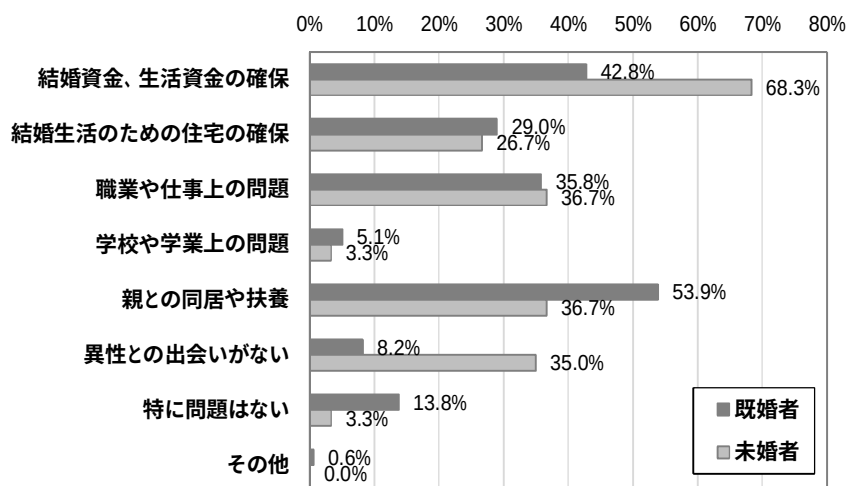
結婚に当たっての問題点	回答数(人)			割合(%)		
	既婚者	未婚者	総計	既婚者	未婚者	総計
結婚資金、生活資金の確保	270	41	311	42.8%	68.3%	45.0%
結婚生活のための住宅の確保	183	16	199	29.0%	26.7%	28.8%
職業や仕事上の問題	226	22	248	35.8%	36.7%	35.9%
学校や学業上の問題	32	2	34	5.1%	3.3%	4.9%
親との同居や扶養	340	22	362	53.9%	36.7%	52.4%
異性との出会いがない	52	21	73	8.2%	35.0%	10.6%
特に問題はない	87	2	89	13.8%	3.3%	12.9%
その他	4	0	4	0.6%	0.0%	0.6%
(回答者総数)	631	60	691	100.0%	100.0%	100.0%

※無回答を除く

(人)



既婚・未婚別結婚に当たっての問題点割合



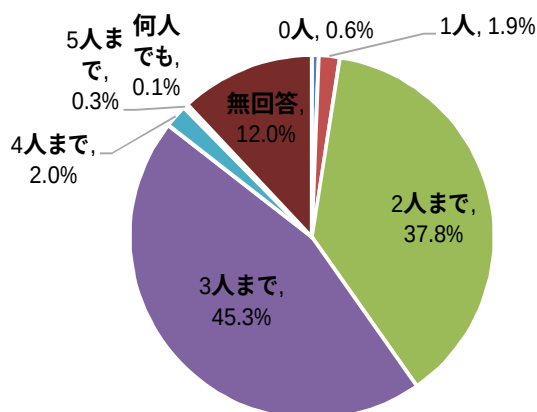
(3) 理想とする子どもの数

既婚者及び結婚を望む層の理想とする子どもの数は、「3人まで」が314人(45.3%)と最も多く、次いで「2人まで」(262人、37.8%)となり、無回答を除く平均値は2.51人となる。

理想とする子どもの数

理想とする子どもの数	回答数(人)	割合(%)
0人	4	0.6%
1人	13	1.9%
2人まで	262	37.8%
3人まで	314	45.3%
4人まで	14	2.0%
5人まで	2	0.3%
何人でも	1	0.1%
無回答	83	12.0%
総計	693	100.0%
平均	2.51	

※平均は無回答と何人でもを除いて算出



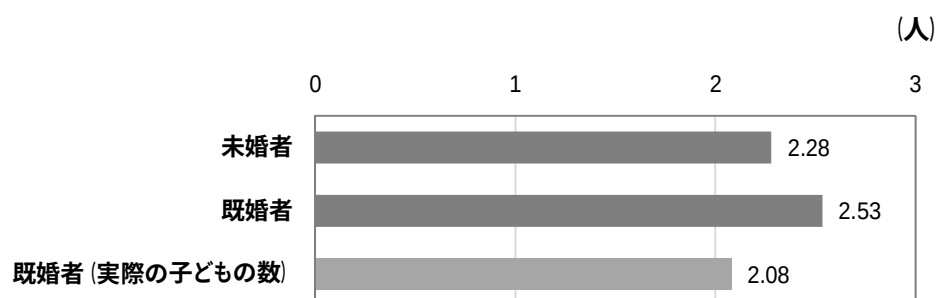
回答者の既婚・未婚別の理想とする子どもの数は、未婚者が平均2.28人となるのに対して、既婚者は平均2.53人となる。

既婚者の実際の子どもの数は平均2.08人であり、理想とする子どもの数と0.45人の差があることが分かる。

既婚・未婚別理想とする子どもの数

理想とする子どもの数	回答数(人)	
	未婚者	既婚者
0人	2	2
1人	1	12
2人まで	34	228
3人まで	21	293
4人まで	1	13
5人まで	0	2
何人でも	0	1
平均(人)	2.28	2.53

既婚・未婚別理想とする子どもの数(平均)



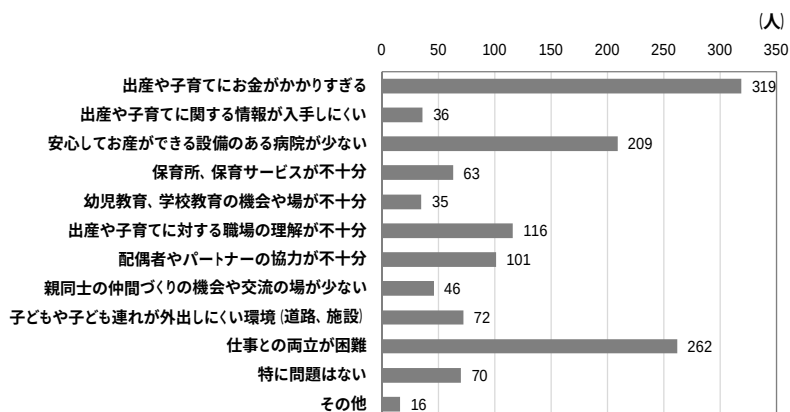
(4) 出産・子育てに当たっての問題点

回答者が経験または想定する出産・子育てに当たっての問題点として、「出産や子育てにお金がかかりすぎる」が319人(50.0%)と最も多く、次いで「仕事との両立が困難」(262人、41.1%)、「安心してお産ができる設備のある病院が少ない」(209人、32.8%)などが挙げられる。

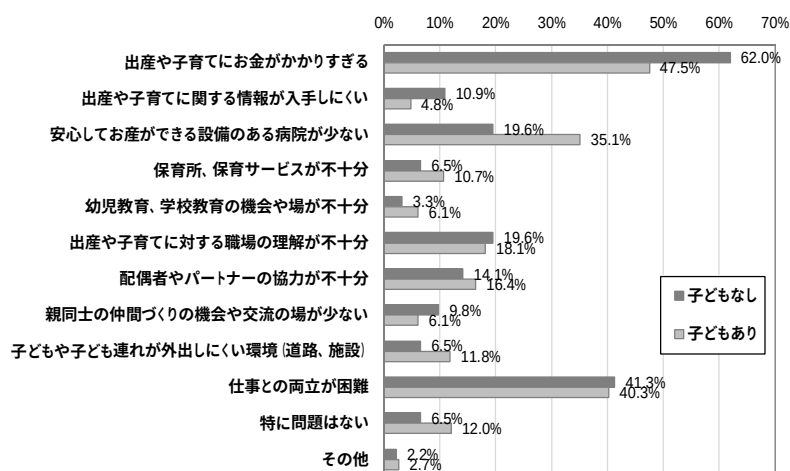
子どもの有無別では、子どもなしの回答者は「出産や子育てにお金がかかりすぎる」が特に高いほか「出産や子育てに関する情報が入手しにくい」などの割合が子どもありと比べて高くなっている。一方、子どもありの回答者では「安心してお産ができる設備のある病院が少ない」「配偶者やパートナーの協力が不十分」「保育所、保育サービスが不十分」「子どもや子ども連れが外出しにくい環境」の割合が子どもなしと比べて高くなっている。

出産・子育てに当たっての問題点(複数回答、回答者総数に占める割合)

出産・子育てに当たっての問題点	回答数(人)				回答者総数に対する割合			
	子どもなし	子どもあり	無回答	総計	子どもなし	子どもあり	無回答	総計
出産や子育てにお金がかかりすぎる	57	249	13	319	62.0%	47.5%	59.1%	50.0%
出産や子育てに関する情報が入手しにくい	10	25	1	36	10.9%	4.8%	4.5%	5.6%
安心してお産ができる設備のある病院が少ない	18	184	7	209	19.6%	35.1%	31.8%	32.8%
保育所、保育サービスが不十分	6	56	1	63	6.5%	10.7%	4.5%	9.9%
幼児教育、学校教育の機会や場が不十分	3	32	0	35	3.3%	6.1%	0.0%	5.5%
出産や子育てに対する職場の理解が不十分	18	95	3	116	19.6%	18.1%	13.6%	18.2%
配偶者やパートナーの協力が不十分	13	86	2	101	14.1%	16.4%	9.1%	15.8%
親同士の仲間づくりの機会や交流の場が少ない	9	32	5	46	9.8%	6.1%	22.7%	7.2%
子どもや子ども連れが外出しにくい環境(道路、施設)	6	62	4	72	6.5%	11.8%	18.2%	11.3%
仕事との両立が困難	38	211	13	262	41.3%	40.3%	59.1%	41.1%
特に問題はない	6	63	1	70	6.5%	12.0%	4.5%	11.0%
その他	2	14	0	16	2.2%	2.7%	0.0%	2.5%
(回答者総数)	92	524	22	638	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



子どもの有無別出産・子育てに当たっての問題点(回答者総数に占める割合)



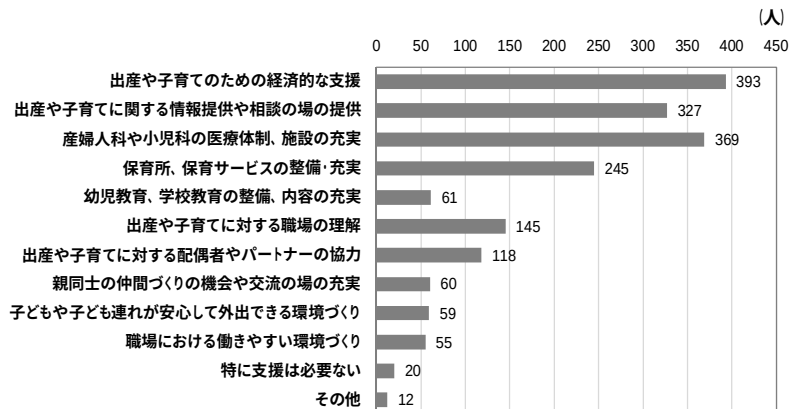
(5) 出産・子育てに必要な支援

出産・子育てに必要な支援として、「出産や子育てのための経済的な支援」が 393 人(61.9%)と最も多く、次いで「産婦人科や小児科の医療体制、施設の充実」(369 人、58.1%)、「出産や子育てに関する情報提供や相談の場の提供」(327 人、51.5%)、「保育所、保育サービスの整備・充実」(245 人、38.6%)などが挙げられる。

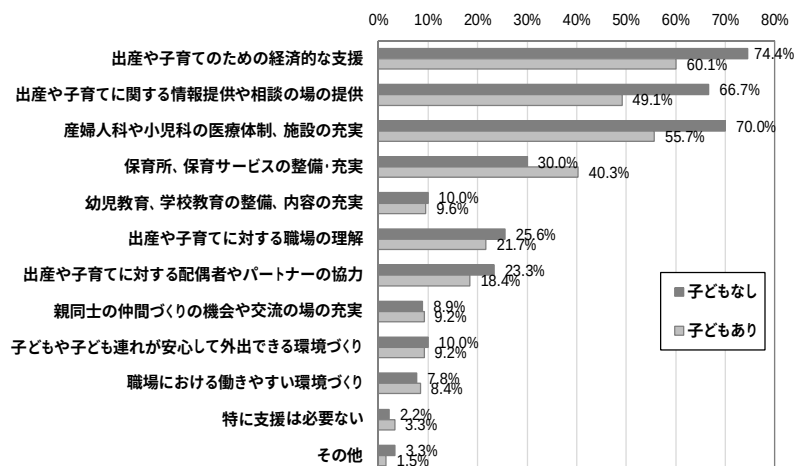
子どもの有無別では、子どもなしの回答者は、このほか、「出産や子育てに対する職場の理解」「出産や子育てに対する配偶者やパートナーの協力」などの割合が比較的高くなる。一方、子どもありの回答者では「保育所、保育サービスの整備・充実」が比較的高くなる。

出産・子育てに必要な支援（複数回答、回答者総数に占める割合）

出産・子育てに必要な支援	回答数(人)				回答者総数に対する割合			
	子どもなし	子どもあり	無回答	総計	子どもなし	子どもあり	無回答	総計
出産や子育てのための経済的な支援	67	313	13	393	74.4%	60.1%	54.2%	61.9%
出産や子育てに関する情報提供や相談の場の提供	60	256	11	327	66.7%	49.1%	45.8%	51.5%
産婦人科や小児科の医療体制、施設の充実	63	290	16	369	70.0%	55.7%	66.7%	58.1%
保育所、保育サービスの整備・充実	27	210	8	245	30.0%	40.3%	33.3%	38.6%
幼児教育、学校教育の整備、内容の充実	9	50	2	61	10.0%	9.6%	8.3%	9.6%
出産や子育てに対する職場の理解	23	113	9	145	25.6%	21.7%	37.5%	22.8%
出産や子育てに対する配偶者やパートナーの協力	21	96	1	118	23.3%	18.4%	4.2%	18.6%
親同士の仲間づくりの機会や交流の場の充実	8	48	4	60	8.9%	9.2%	16.7%	9.4%
子どもや子ども連れが安心して外出できる環境づくり	9	48	2	59	10.0%	9.2%	8.3%	9.3%
職場における働きやすい環境づくり	7	44	4	55	7.8%	8.4%	16.7%	8.7%
特に支援は必要ない	2	17	1	20	2.2%	3.3%	4.2%	3.1%
その他	3	8	1	12	3.3%	1.5%	4.2%	1.9%
(回答者総数)	90	521	24	635	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



子どもの有無別出産・子育てに必要な支援（回答者総数に占める割合）

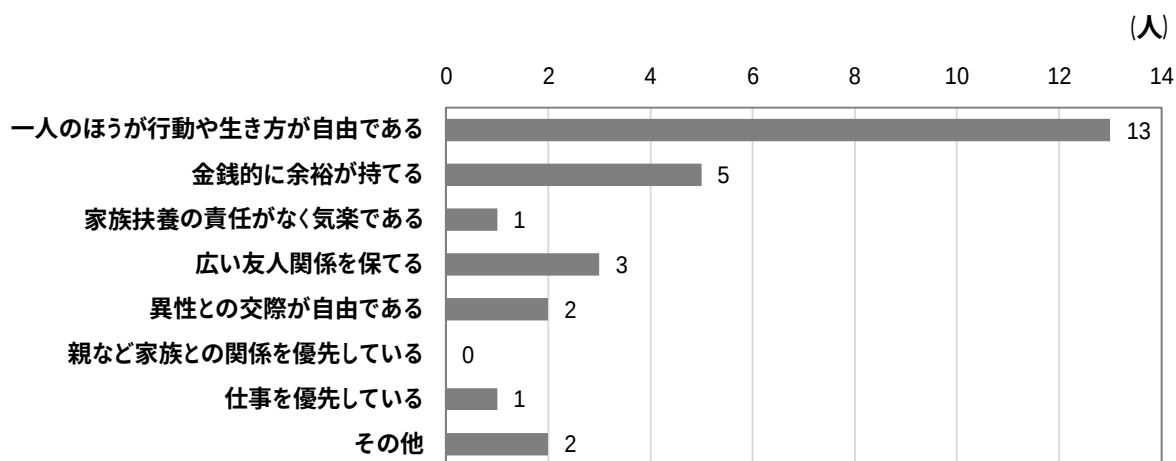


(6) 結婚しない理由

結婚を積極的に望まない層の結婚しない理由として、「一人のほうが行動や生き方が自由である」が13人(86.7%)と最も多く、次いで「金銭的に余裕が持てる」(5人、33.3%)が挙げられる。

結婚しない理由（複数回答）

結婚しない理由	回答数(人)	割合(%)
一人のほうが行動や生き方が自由である	13	86.7%
金銭的に余裕が持てる	5	33.3%
家族扶養の責任がなく気楽である	1	6.7%
広い友人関係を保てる	3	20.0%
異性との交際が自由である	2	13.3%
親など家族との関係を優先している	0	0.0%
仕事を優先している	1	6.7%
その他	2	13.3%
(回答者総数)	15	100.0%



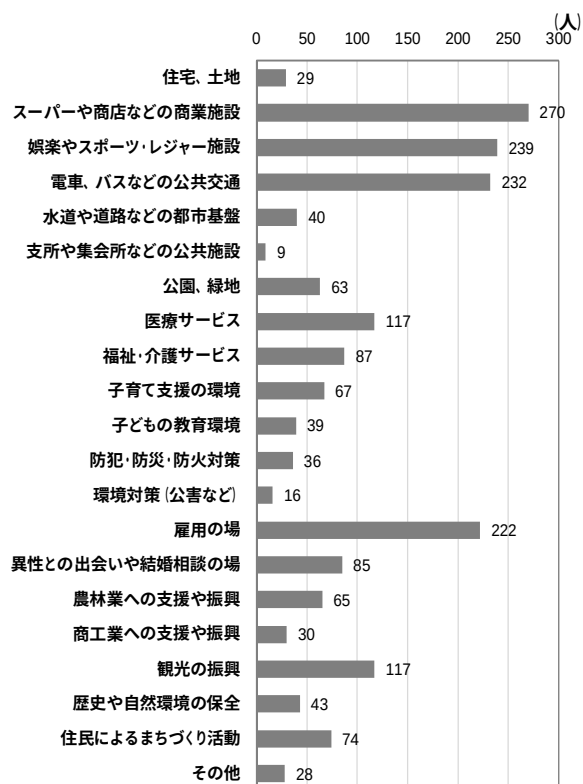
4-5. まちづくりについて

(1) まちづくりに不足していると感じるもの

まちづくりに不足していると感じるものとして、「スーパーや商店などの商業施設」が270人(34.7%)と最も多く挙げられている。次いで、「娯楽やスポーツ・レジャー施設」(239人、30.8%)、「電車、バスなどの公共交通」(232人、29.9%)、「雇用の場」(222人、28.6%)などが挙げられている。

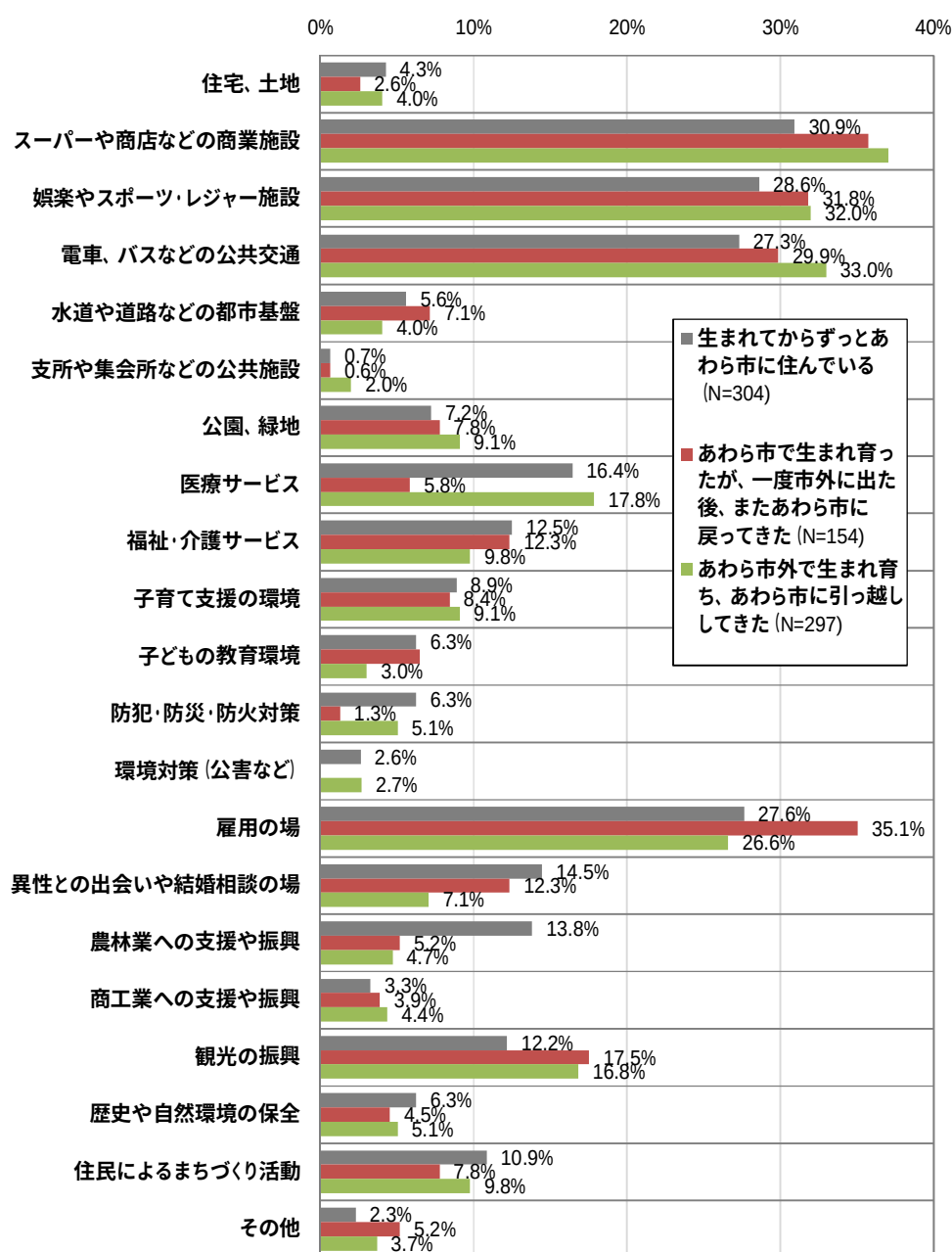
まちづくりに不足していると感じるもの(複数回答、回答者総数に占める割合)

まちづくりに不足していると感じるもの	回答数(人)	割合(%)
住宅、土地	29	3.7%
スーパーや商店などの商業施設	270	34.7%
娯楽やスポーツ・レジャー施設	239	30.8%
電車、バスなどの公共交通	232	29.9%
水道や道路などの都市基盤	40	5.1%
支所や集会所などの公共施設	9	1.2%
公園、緑地	63	8.1%
医療サービス	117	15.1%
福祉・介護サービス	87	11.2%
子育て支援の環境	67	8.6%
子どもの教育環境	39	5.0%
防犯・防災・防火対策	36	4.6%
環境対策(公害など)	16	2.1%
雇用の場	222	28.6%
異性との出会いや結婚相談の場	85	10.9%
農林業への支援や振興	65	8.4%
商工業への支援や振興	30	3.9%
観光の振興	117	15.1%
歴史や自然環境の保全	43	5.5%
住民によるまちづくり活動	74	9.5%
その他	28	3.6%
(回答者総数)	777	100.0%



出身別では、「あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた」回答者は「雇用の場」を挙げる割合が高い。「あわら市外で生まれ育ち、あわら市に引っ越ししてきた」回答者は「スーパーや商店などの商業施設」や「電車、バスなどの公共交通」「医療サービス」などの生活利便施設の不足を挙げる割合が比較的高くなっている。「生まれてからずっとあわら市に住んでいる」回答者は、「医療サービス」や「農林業への支援や振興」を挙げる割合が他と比べ高くなっている。

居住年別まちづくりに不足していると感じるもの
(回答者総数に占める割合)

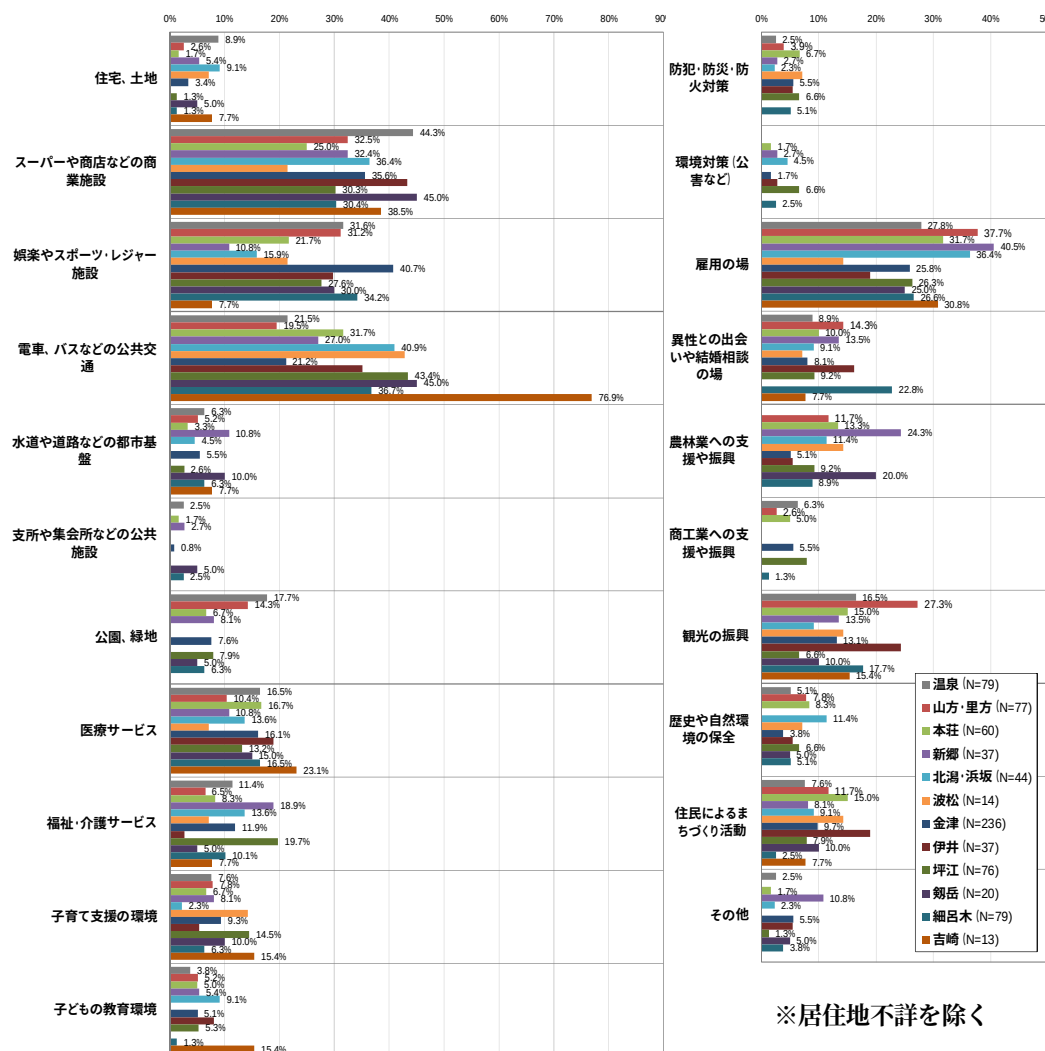


※出身不詳を除く

居住地別では、吉崎地区で「電車、バスなどの公共交通」の割合が特に高くなっている。
山方・里方地区、本荘地区、新郷地区等では「雇用の場」、温泉地区、伊井地区、劔岳地区等
では「スーパーや商店などの商業施設」、金津地区等では「娯楽やスポーツ・レジャー施設」
を挙げる割合が高くなっている。

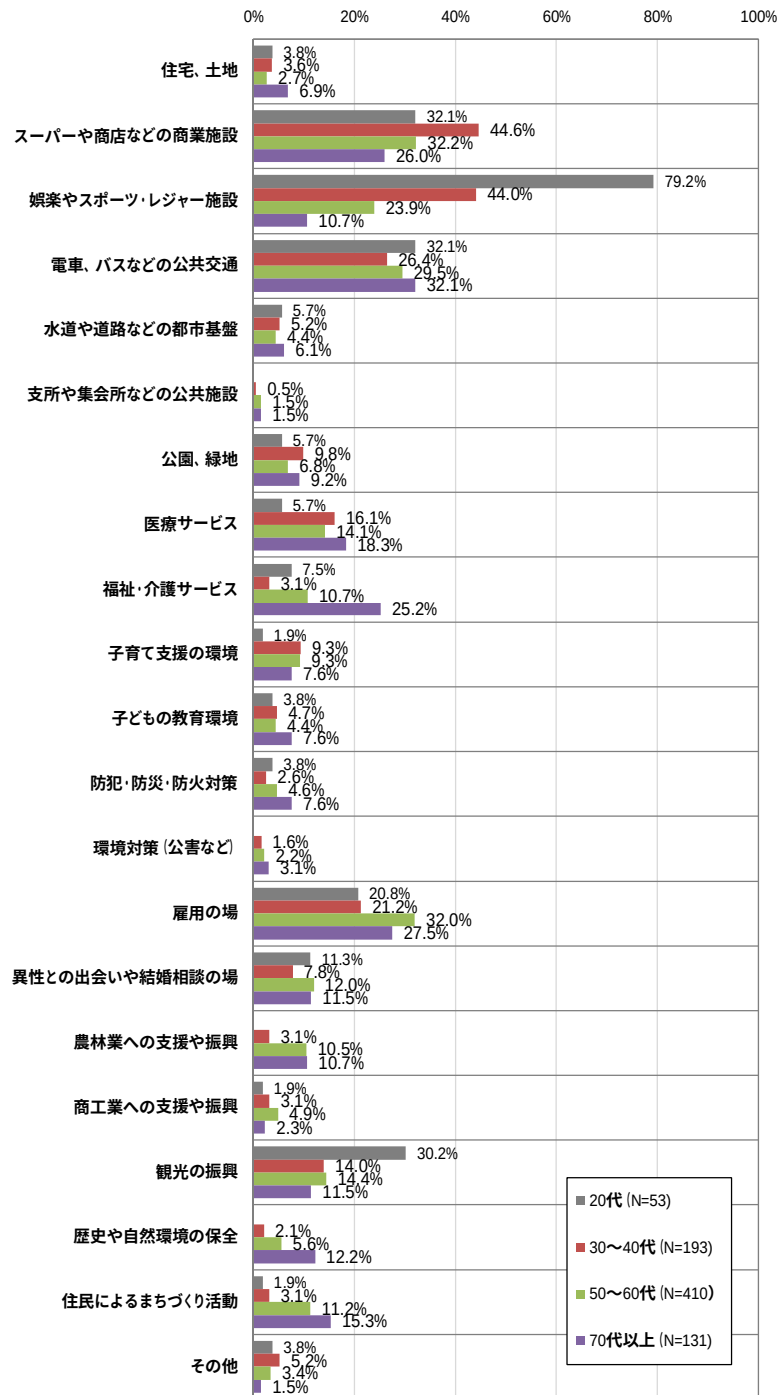
居住地別まちづくりに不足していると感じるもの (回答者総数に占める割合)

まちづくりに不足していると感じるもの	割合 (%)											
	温泉 (N=79)	山方・里方 (N=77)	本荘 (N=60)	新郷 (N=37)	北潟・浜坂 (N=44)	波松 (N=14)	金津 (N=236)	伊井 (N=37)	坪江 (N=76)	劔岳 (N=20)	細呂木 (N=79)	吉崎 (N=13)
住宅、土地	8.9%	2.6%	1.7%	5.4%	9.1%	7.1%	3.4%	0.0%	1.3%	5.0%	1.3%	7.7%
スーパーや商店などの商業施設	44.3%	32.5%	25.0%	32.4%	36.4%	21.4%	35.6%	43.2%	30.3%	45.0%	30.4%	38.5%
娯楽やスポーツ・レジャー施設	31.6%	31.2%	21.7%	10.8%	15.9%	21.4%	40.7%	29.7%	27.6%	30.0%	34.2%	7.7%
電車、バスなどの公共交通	21.5%	19.5%	31.7%	27.0%	40.9%	42.9%	21.2%	35.1%	43.4%	45.0%	36.7%	76.9%
水道や道路などの都市基盤	6.3%	5.2%	3.3%	10.8%	4.5%	0.0%	5.5%	0.0%	2.6%	10.0%	6.3%	7.7%
支所や集会所などの公共施設	2.5%	0.0%	1.7%	2.7%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	5.0%	2.5%	0.0%
公園、緑地	17.7%	14.3%	6.7%	8.1%	0.0%	0.0%	7.6%	0.0%	7.9%	5.0%	6.3%	0.0%
医療サービス	16.5%	10.4%	16.7%	10.8%	13.6%	7.1%	16.1%	18.9%	13.2%	15.0%	16.5%	23.1%
福祉・介護サービス	11.4%	6.5%	8.3%	18.9%	13.6%	7.1%	11.9%	2.7%	19.7%	5.0%	10.1%	7.7%
子育て支援の環境	7.6%	7.8%	6.7%	8.1%	2.3%	14.3%	9.3%	5.4%	14.5%	10.0%	6.3%	15.4%
子どもの教育環境	3.8%	5.2%	5.0%	5.4%	9.1%	0.0%	5.1%	8.1%	5.3%	0.0%	1.3%	15.4%
防犯・防災・防火対策	2.5%	3.9%	6.7%	2.7%	2.3%	7.1%	5.5%	5.4%	6.6%	0.0%	5.1%	0.0%
環境対策（公害など）	0.0%	0.0%	1.7%	2.7%	4.5%	0.0%	1.7%	2.7%	6.6%	0.0%	2.5%	0.0%
雇用の場	27.8%	37.7%	31.7%	40.5%	36.4%	14.3%	25.8%	18.9%	26.3%	25.0%	26.6%	30.8%
異性との出会いや結婚相談の場	8.9%	14.3%	10.0%	13.5%	9.1%	7.1%	8.1%	16.2%	9.2%	0.0%	22.8%	7.7%
農林業への支援や振興	0.0%	11.7%	13.3%	24.3%	11.4%	14.3%	5.1%	5.4%	9.2%	20.0%	8.9%	0.0%
商工業への支援や振興	6.3%	2.6%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.5%	0.0%	7.9%	0.0%	1.3%	0.0%
観光の振興	16.5%	27.3%	15.0%	13.5%	9.1%	14.3%	13.1%	24.3%	6.6%	10.0%	17.7%	15.4%
歴史や自然環境の保全	5.1%	7.8%	8.3%	0.0%	11.4%	7.1%	3.8%	5.4%	6.6%	5.0%	5.1%	0.0%
住民によるまちづくり活動	7.6%	11.7%	15.0%	8.1%	9.1%	14.3%	9.7%	18.9%	7.9%	10.0%	2.5%	7.7%
その他	2.5%	0.0%	1.7%	10.8%	2.3%	0.0%	5.5%	5.4%	1.3%	5.0%	3.8%	0.0%
（回答者総数）	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



年代区分別では、20代の回答者で「娯楽やスポーツ・レジャー施設」を20代の挙げる割合が特に高くなっている。50代以上の回答者は「雇用の場」、70代以上の回答者は「福祉介護サービス」を挙げる割合が高い。「電車やバスなどの公共交通」は20代と70代以上の挙げる割合が比較的高くなっている。

年代区分別まちづくりに不足していると感じるもの
(回答者総数に占める割合)



※年代不詳を除く

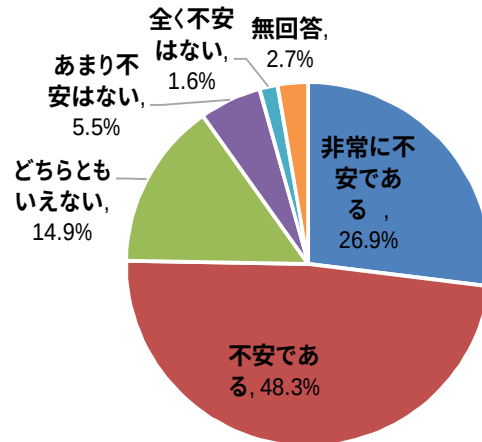
4-6. 人口減少問題について

(1) 人口減少問題に対する不安

あわら市の将来の人口減少問題に対する不安について、「不安である」が 393 人（48.3%）と最も多く、「非常に不安である」（219 人、26.9%）と合わせた 75.3%が不安を感じている。

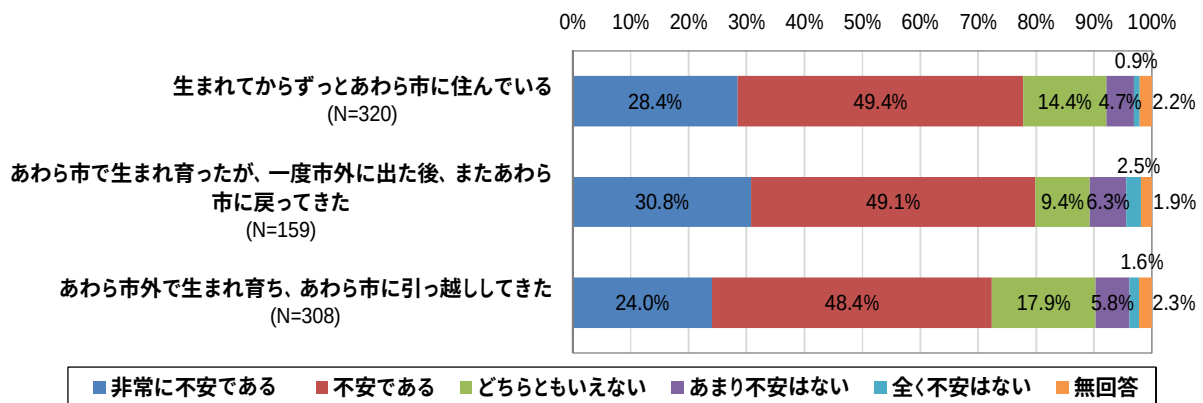
人口減少問題に対する不安

人口減少問題に対する意識	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
非常に不安である	219	26.9%	612	75.3%
不安である	393	48.3%		
どちらともいえない	121	14.9%	121	14.9%
あまり不安はない	45	5.5%		
全く不安はない	13	1.6%	58	7.1%
無回答	22	2.7%	22	2.7%
総計	813	100.0%	813	100.0%



出身別でみると、不安を感じる層の割合が最も大きいのは「あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた」回答者、次いで「生まれてからずっとあわら市に住んでいる」回答者となっている。

出身別人口減少問題に対する不安

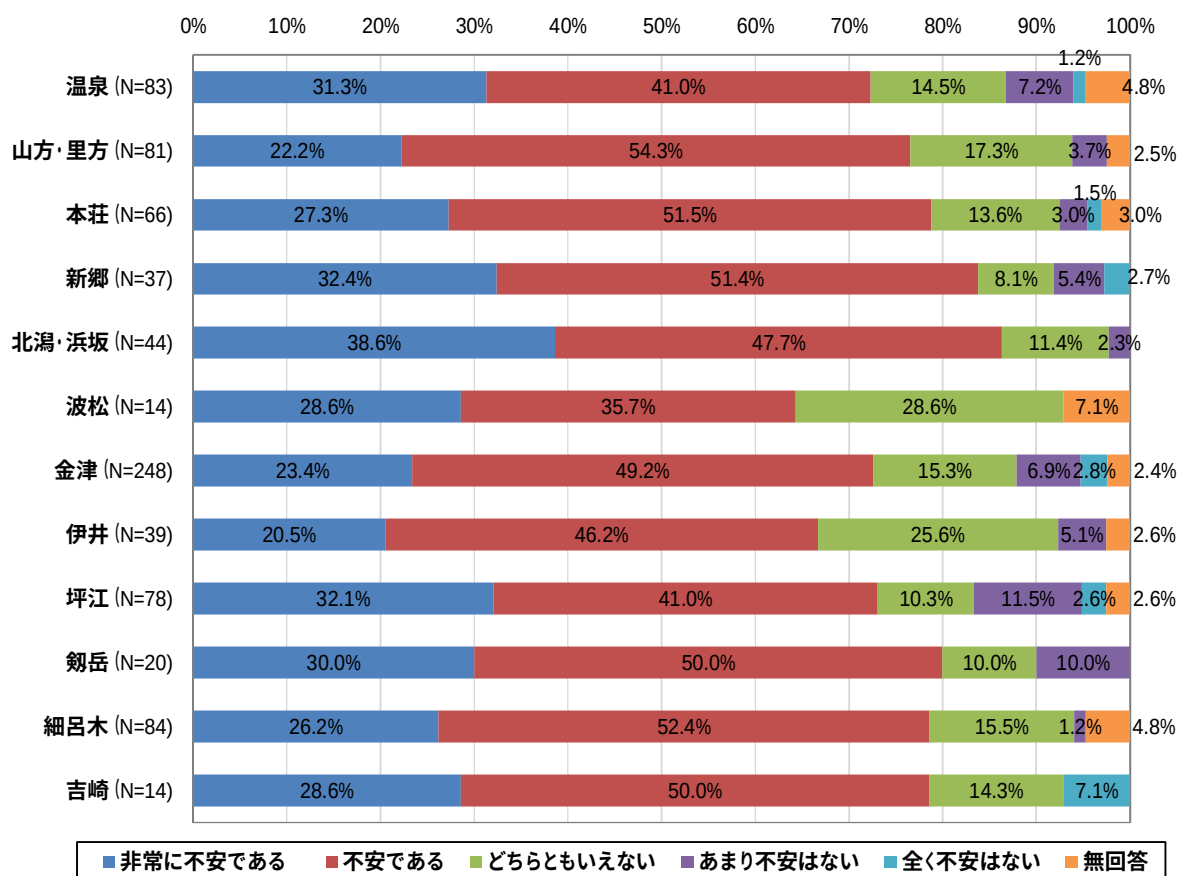


※出身不詳を除く

居住地別では、北潟・浜坂地区、新郷地区、劔岳地区で不安を感じる層の割合が 8 割を超えている。他の地区でも 6～8 割の人が不安を感じている。

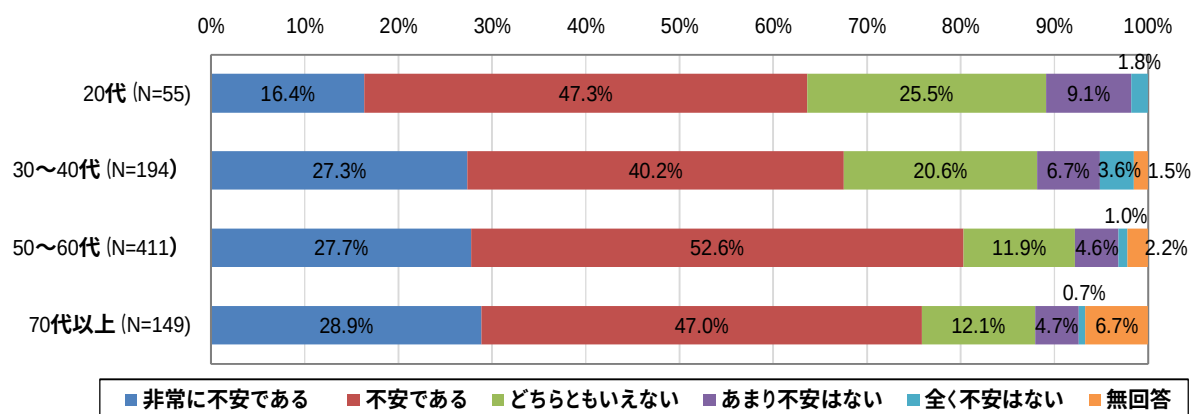
年代区分別では、高齢の年代ほど不安と感じる層の割合は高く、50～60 代で「非常に不安である」と感じる割合が最も高くなっている。

居住年別人口減少問題に対する不安



※居住地不詳を除く

年代区分別人口減少問題に対する不安



※年代不詳を除く

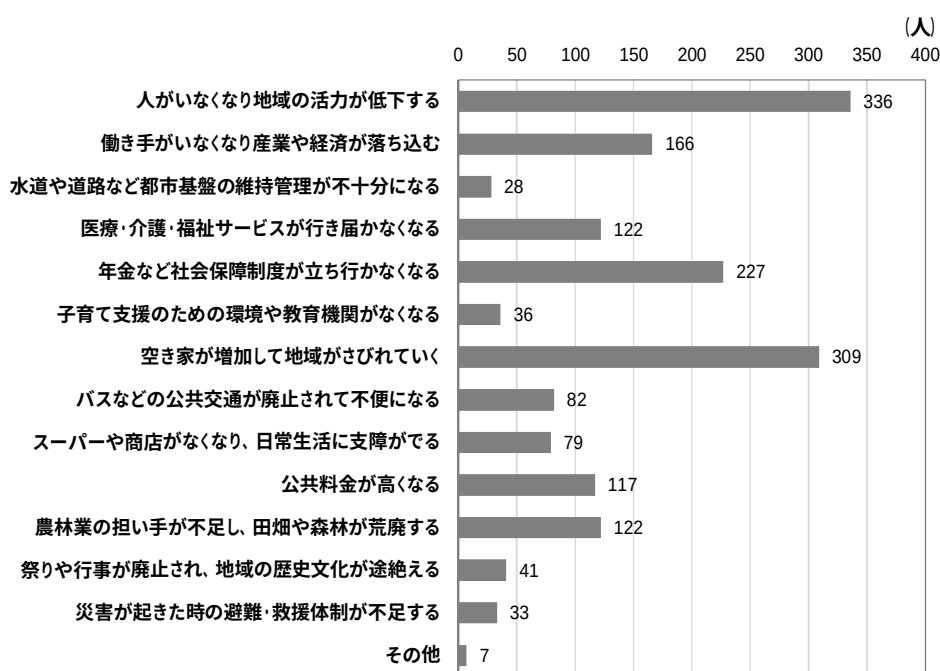
(2) 人口減少問題の不安内容

人口減少問題に不安を感じる層について、不安の具体的内容を尋ねたところ、「人がいなくなり地域の活力が低下する」が336人(55.5%)と最も多く挙げられた。次いで、「空き家が増加して地域がさびれていく」309人(51.1%)、「年金など社会保障制度が立ち行かなくなる」(227人、37.5%)、「働き手がいなくなり産業や経済が落ち込む」(166人、27.4%)などが挙げられた。

人口減少問題に対する不安内容（複数回答、回答者総数に占める割合）

人口減少問題に対する不安内容	回答数(人)	割合(%)
人がいなくなり地域の活力が低下する	336	55.5%
働き手がいなくなり産業や経済が落ち込む	166	27.4%
水道や道路など都市基盤の維持管理が不十分になる	28	4.6%
医療・介護・福祉サービスが行き届かなくなる	122	20.2%
年金など社会保障制度が立ち行かなくなる	227	37.5%
子育て支援のための環境や教育機関がなくなる	36	6.0%
空き家が増加して地域がさびれていく	309	51.1%
バスなどの公共交通が廃止されて不便になる	82	13.6%
スーパーや商店がなくなり、日常生活に支障がでる	79	13.1%
公共料金が高くなる	117	19.3%
農林業の担い手が不足し、田畑や森林が荒廃する	122	20.2%
祭りや行事が廃止され、地域の歴史文化が途絶える	41	6.8%
災害が起きた時の避難・救援体制が不足する	33	5.5%
その他	7	1.2%
(回答者総数)	605	100.0%

※無回答を除く

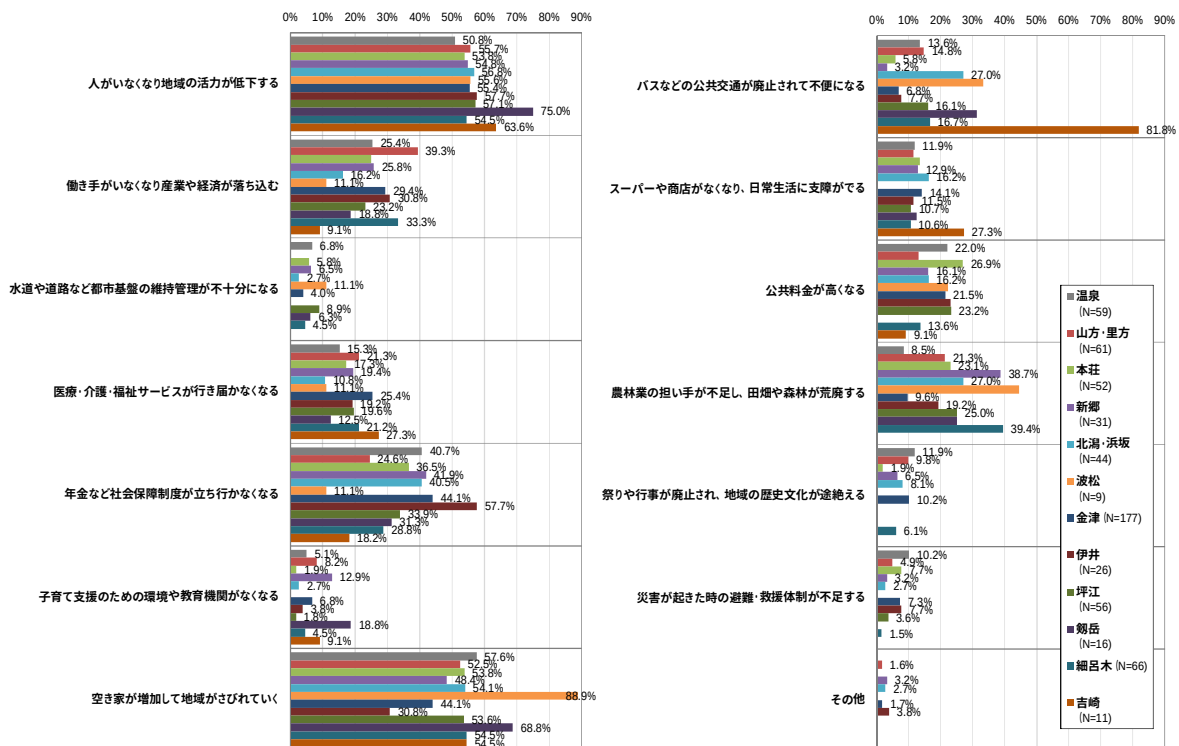


居住地別にみると、「人がいなくなり地域の活力が低下する」は全ての地区で 50%を超えるが、劔岳地区での割合が特に高くなっている。「空き家が増加して地域がさびれていく」も多くの地区で 50%を超えるが、波松地区での割合特に高くなっている。伊井地区では「年金など社会保障制度が立ち行かなくなる」、吉崎地区で「バスなど公共交通が廃止されて不便になる」の割合が他地区と比べ高くなっている。

居住地別人口減少問題に対する不安内容 (回答者総数に占める割合)

人口減少問題に対する意識	割合 (%)											
	温泉 (N=59)	山方・里方 (N=61)	本荘 (N=52)	新郷 (N=31)	北潟・浜坂 (N=44)	波松 (N=9)	金津 (N=177)	伊井 (N=26)	坪江 (N=56)	劔岳 (N=16)	細呂木 (N=66)	吉崎 (N=11)
人がいなくなり地域の活力が低下する	50.8	55.7	53.8	54.8	56.8	55.6	55.4	57.7	57.1	75.0	54.5	63.6
働き手がいなくなり産業や経済が落ち込む	25.4	39.3	25.0	25.8	16.2	11.1	29.4	30.8	23.2	18.8	33.3	9.1
水道や道路など都市基盤の維持管理が不十分になる	6.8	0.0	5.8	6.5	2.7	11.1	4.0	0.0	8.9	6.3	4.5	0.0
医療・介護・福祉サービスが行き届かなくなる	15.3	21.3	17.3	19.4	10.8	11.1	25.4	19.2	19.6	12.5	21.2	27.3
年金など社会保障制度が立ち行かなくなる	40.7	24.6	36.5	41.9	40.5	11.1	44.1	57.7	33.9	31.3	28.8	18.2
子育て支援のための環境や教育機関がなくなる	5.1	8.2	1.9	12.9	2.7	0.0	6.8	3.8	1.8	18.8	4.5	9.1
空き家が増加して地域がさびれていく	57.6	52.5	53.8	48.4	54.1	88.9	44.1	30.8	53.6	68.8	54.5	54.5
バスなどの公共交通が廃止されて不便になる	13.6	14.8	5.8	3.2	27.0	33.3	6.8	7.7	16.1	31.3	16.7	81.8
スーパーや商店がなくなり、日常生活に支障がでる	11.9	11.5	13.5	12.9	16.2	0.0	14.1	11.5	10.7	12.5	10.6	27.3
公共料金が高くなる	22.0	13.1	26.9	16.1	16.2	22.2	21.5	23.1	23.2	0.0	13.6	9.1
農林業の担い手が不足し、田畑や森林が荒廃する	8.5	21.3	23.1	38.7	27.0	44.4	9.6	19.2	25.0	25.0	39.4	0.0
祭りや行事が廃止され、地域の歴史文化が途絶える	11.9	9.8	1.9	6.5	8.1	0.0	10.2	0.0	0.0	0.0	6.1	0.0
災害が起きた時の避難・救援体制が不足する	10.2	4.9	7.7	3.2	2.7	0.0	7.3	7.7	3.6	0.0	1.5	0.0
その他	0.0	1.6	0.0	3.2	2.7	0.0	1.7	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0
回答者総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

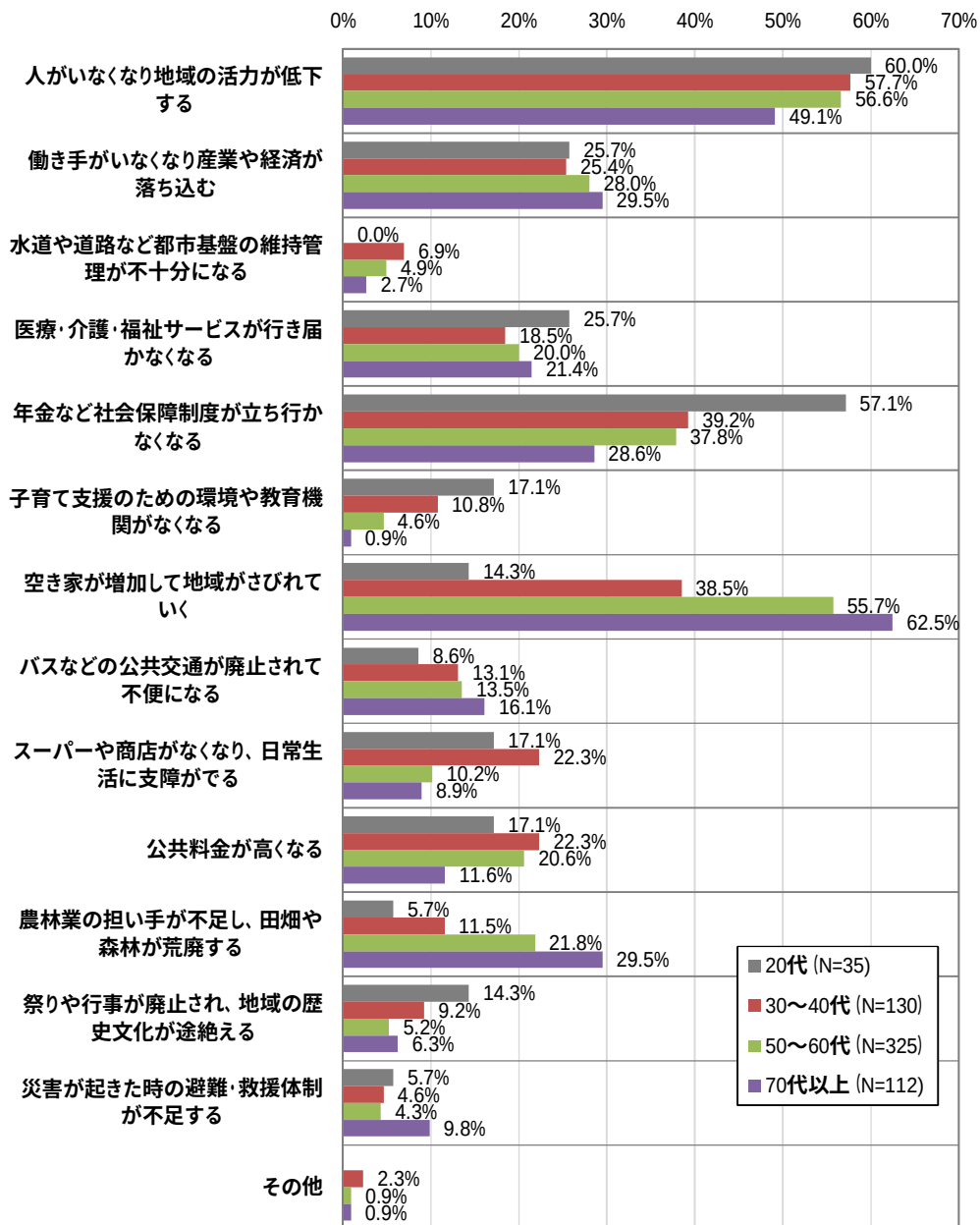
※居住地不詳を除く
※網掛けは地区 1 位と 50%以上



年代区分別にみると、各年代ともに「人がいなくなり地域の活力が低下する」の割合が高い。「空き家が増加して地域がさびれていく」は高い年齢層挙げる割合が比較的高くなっている。

20代は「人がいなくなり地域の活力が低下する」のほか「年金など社会保障制度が立ち行かなくなる」の割合が特に高くなっている。30～40代では「スーパーや商店がなくなり、日常生活に支障がでる」「公共料金が高くなる」、70代以上では「農林業の担い手が不足し、田畑や森林が荒廃する」を挙げる割合が他の年代より高くなっている。

年代区分別人口減少問題に対する不安内容
(回答者総数に占める割合)



※年代不詳を除く

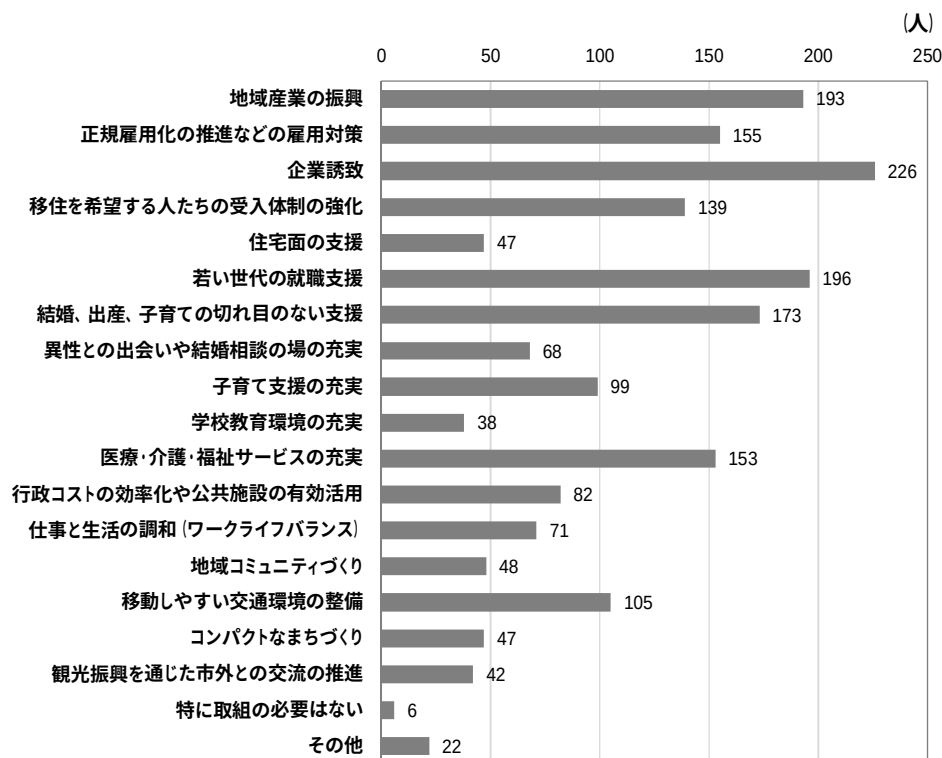
(3) 人口減少問題への対応に必要な取組

人口減少問題への対応に必要な取組としては、「企業誘致」が226人(31.8%)と最も多く、次いで、「若い世代の就職支援」(196人、27.6%)、「地域産業の振興」(193人、27.1%)、「結婚、出産、子育ての切れ目のない支援」(173人、24.3%)などが挙げられる。

人口減少問題への対応に必要な取組（複数回答、回答者総数に占める割合）

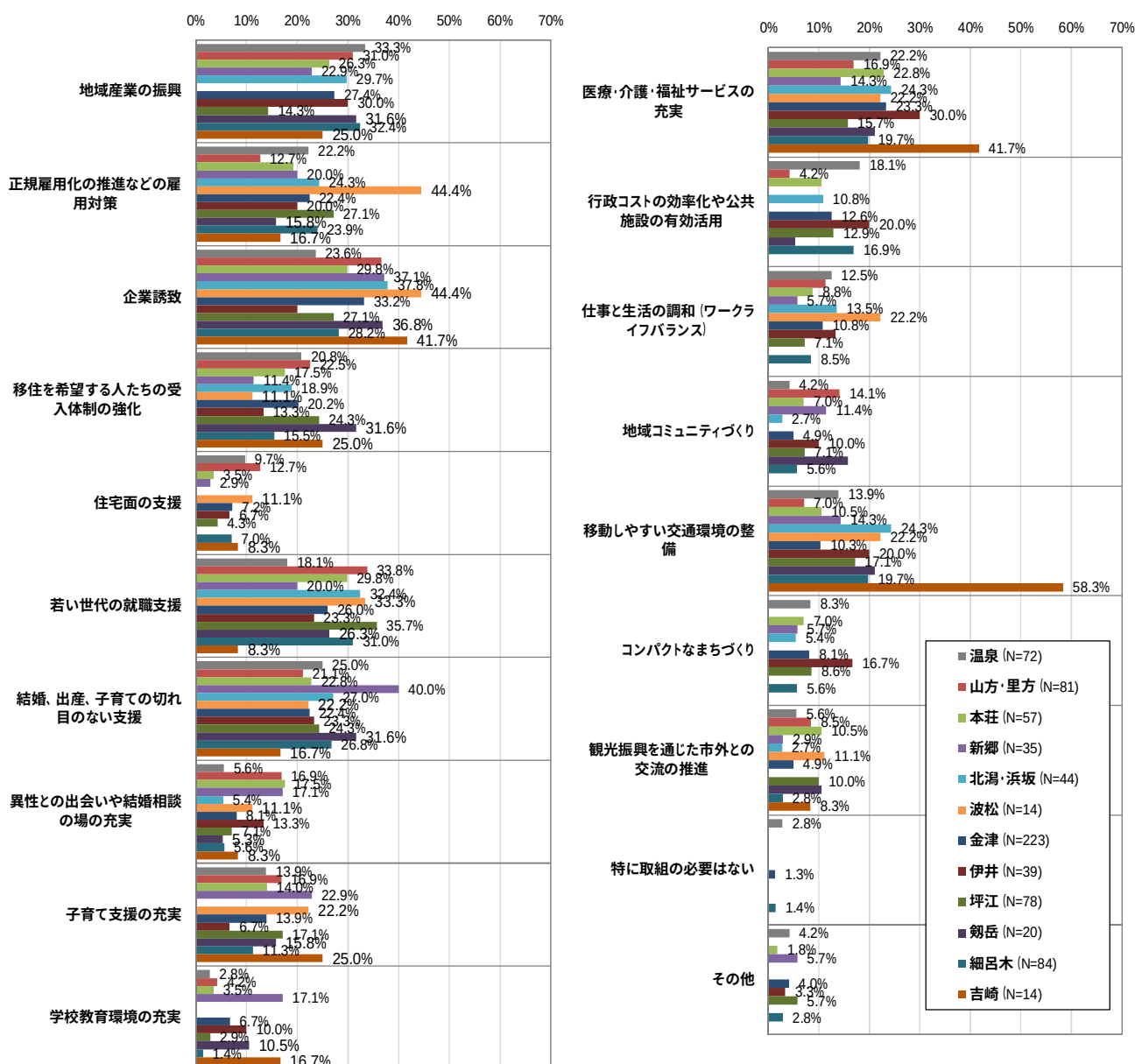
人口減少問題への対応に必要な取組	回答数(人)	割合(%)
地域産業の振興	193	27.1%
正規雇用化の推進などの雇用対策	155	21.8%
企業誘致	226	31.8%
移住を希望する人たちの受入体制の強化	139	19.5%
住宅面の支援	47	6.6%
若い世代の就職支援	196	27.6%
結婚、出産、子育ての切れ目のない支援	173	24.3%
異性との出会いや結婚相談の場の充実	68	9.6%
子育て支援の充実	99	13.9%
学校教育環境の充実	38	5.3%
医療・介護・福祉サービスの充実	153	21.5%
行政コストの効率化や公共施設の有効活用	82	11.5%
仕事と生活の調和(ワークライフバランス)	71	10.0%
地域コミュニティづくり	48	6.8%
移動しやすい交通環境の整備	105	14.8%
コンパクトなまちづくり	47	6.6%
観光振興を通じた市外との交流の推進	42	5.9%
特に取組の必要はない	6	0.8%
その他	22	3.1%
(回答者総数)	711	100.0%

※無回答を除く



居住地別にみると、新郷地区や劔岳地区で「結婚、出産、子育ての切れ目のない支援」「学校教育環境の充実」、波松地区で「正規雇用化の推進などの雇用対策」「企業誘致」「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）」、吉崎地区で「移動しやすい交通環境の整備」「医療・介護・福祉サービスの充実」の割合が他地区と比べ高くなっている。

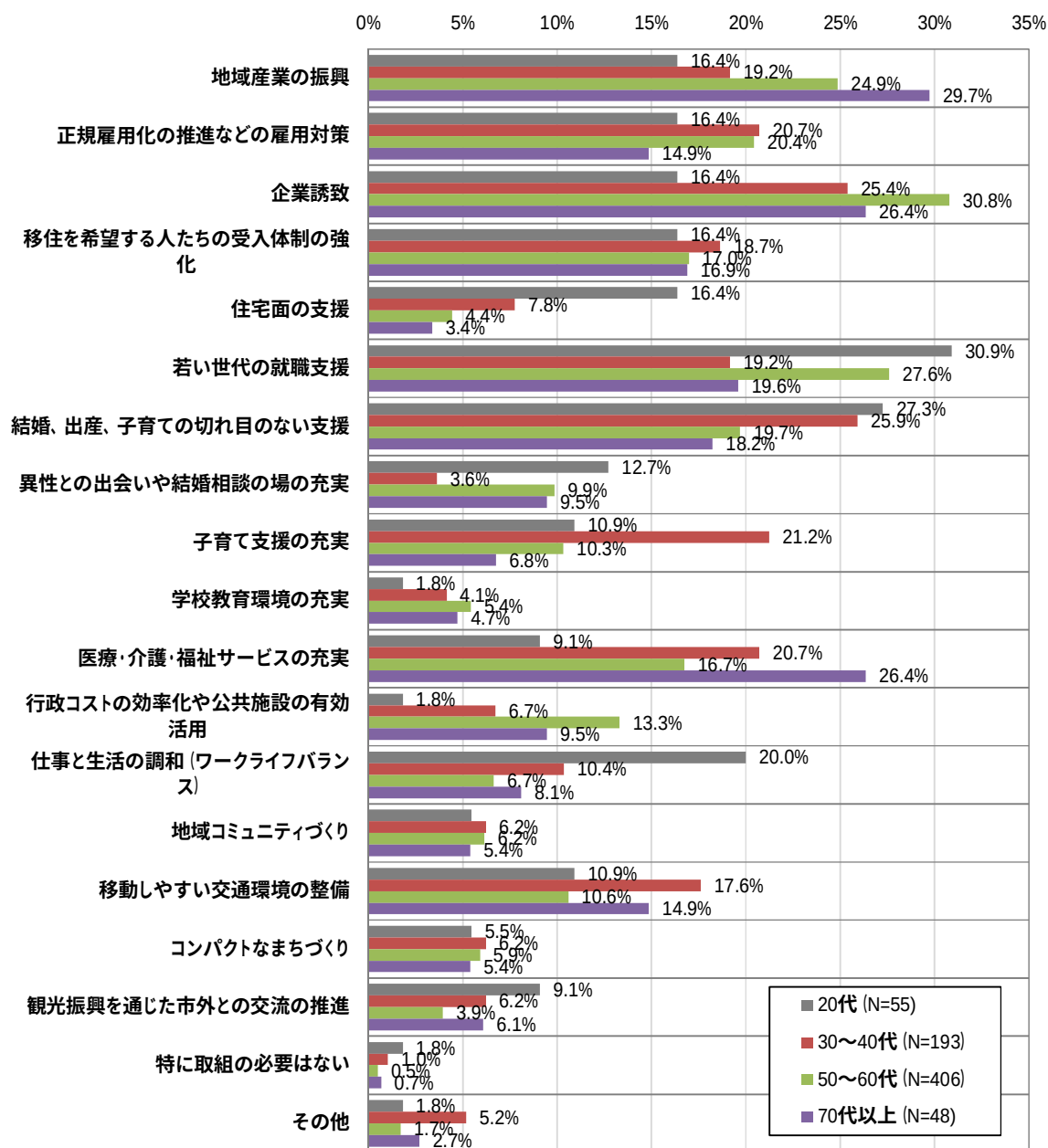
居住地別人口減少問題への対応に必要な取組（複数回答）
（回答者総数に占める割合）



※居住地不詳を除く

年代区分別にみると、20代では「若い世代の就職支援」「結婚、出産、子育ての切れ目のない支援」「仕事と生活の調和（ワークライフバランス）」を挙げる割合が高い。30～40代は「子育て支援の充実」「移動しやすい交通環境の整備」等、50～60代は、「企業誘致」「若い世代の就職支援」等、70代以上は「地域産業の振興」「医療・介護・福祉サービスの充実」「移動しやすい交通環境の整備」等を挙げる割合が比較的高くなっている。

年代区分別人口減少問題への対応に必要な取組（複数回答）
（回答者総数に占める割合）



※年代不詳を除く

アンケート調査票

『あわら市暮らしとまちづくりに関する市民アンケート調査』 ご協力をお願い

市民の皆さまには、日頃より市政各般にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

先般、日本創成会議・人口減少問題検討分科会が発表した将来推計人口によると、少子化や大都市部への人口の移動がそのまま続けば、わが国の自治体の約半数が「将来、消滅する可能性がある都市」となる恐れがあるとされ、その中にあわら市も含まれています。

あわら市の人口は平成7年（1995年）をピークに引き続き減少傾向にあり、今後も若年層の減少や高齢者の増加が予測されています。

（この用紙の裏面『（参考）あわら市の将来推計人口について』をご参照ください）

人口減少・少子高齢化は、地域の活力低下や社会保障コストの増加など、市の様々な問題に深く関わる重要課題の一つであり、市として人口減少問題に取り組むべく、その指針となる『あわら市人口ビジョン』及び『あわら市まち・ひと・しごと創生総合戦略』の策定を進めています。

今回お願いするアンケート調査は、同ビジョン及び戦略の検討を進めていくにあたり、住民の皆さまの暮らし、また子育て環境やまちづくりに関するご意見、ご要望等を把握するために実施するものです。

ご多忙のところ誠にご面倒とは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成27年7月
あわら市総務部政策課

【このアンケート調査について】

- ・このアンケート調査は、住民の皆様の中から、平成27年4月1日現在で20歳以上の2,500名を無作為に抽出し、調査票を送付しています。
- ・調査結果につきましては、本調査の目的以外に使用することはありません。
- ・回答は無記名で、統計的に処理されますので、個人が特定されることはありません。

【アンケートへの回答について】

- ・アンケートには、**封筒の宛名のご本人がお答えください**。ご本人による調査票への記入が困難な場合には、ご家族の方などの代筆をお願い致します。
- ・ご回答は、この調査票に直接エンピツ等で記入してください。
- ・ご回答は、あてはまる番号に○を付けていただくものが中心ですが、一部、数値や内容を記入していただくものもあります。質問をよくお読みになってご回答ください。

【返送の方法、期日について】

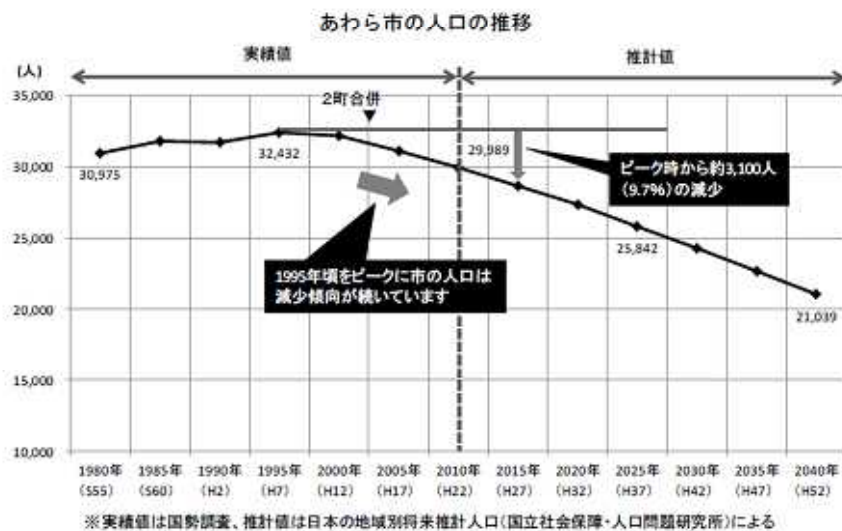
- ・調査票の記入が終わりましたら、調査票を同封の返信用封筒に入れ、**切手を貼らずに、平成27年8月7日（金）までに、ポストに投函してください。**

【この調査についてのお問合せ先】

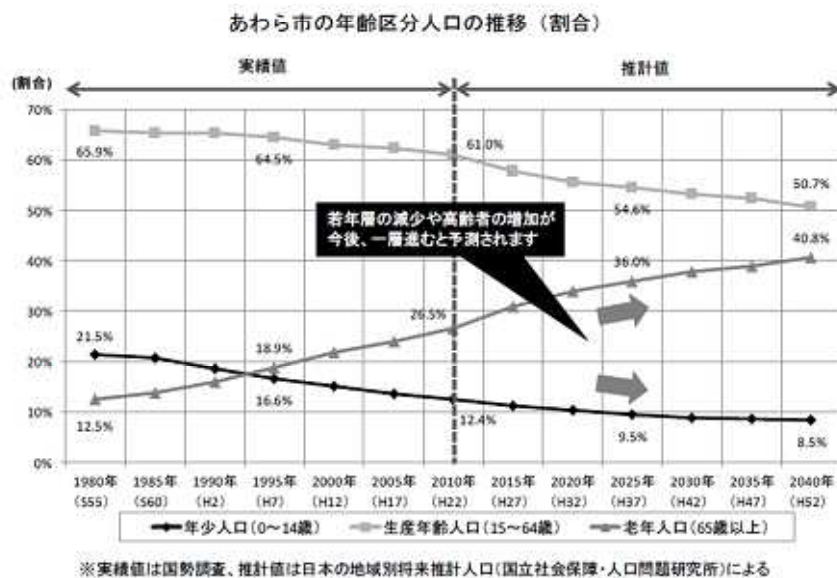
あわら市総務部政策課 担当：赤神（アカガミ）
〒919-0692 あわら市市姫三丁目1番1号
TEL 0776-73-8005（直通）
MAIL seisaku@city.awara.lg.jp

(参考) あわら市の将来推計人口について

- あわら市の人口は29,300人（平成27年（2015年）4月1日現在）と、ピーク時（平成7年（1995年））の32,432人と比べ、約3,100人（9.7%）の減少となっています。
- 国立社会保障・人口問題研究所による推計では、今後も同様に人口の減少傾向が続くと予測されています。



- 年齢ごとにみると、平成7年（1995）には高齢者の割合が若年層を既に上回っており、若年層の減少や高齢者の増加は、今後より一層進むと予測されます。



あわら市暮らしとまちづくりに関する市民アンケート調査

1. あなたご自身についてお答えください。(あてはまる項目に○をつけてください)

(1) 性別 ☐ 男性 ☐ 女性

(2) 年齢 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代以上

(3) 居住地

1. 温泉地区	2. 山方・里方地区	3. 本荘地区	4. 新郷地区
5. 北潟・浜坂地区	6. 波松地区	7. 金津地区	8. 伊井地区
9. 坪江地区	10. 鶴岳地区	11. 細呂木地区	12. 吉崎地区

(4) 職業

1. 学生	2. 会社員・公務員・団体職員等	3. 自営業	4. パート・アルバイト
5. 専業主婦(夫)	6. 無職	7. その他()	

→ (5) 勤務地/通学地 ※問1-(4)で1~4または7をお答えの方

1. あわら市内	2. 市外(具体的に:)	市・町・村
----------	---------------	-------

(6) ご家族構成

1. ひとり暮らし	2. 夫婦ふたり暮らし	3. 親と子の世帯(二世帯)
4. 親と子と孫など(三世帯以上)	5. その他()	

(7) 子どもの有無 ☐ 1. なし ☐ 2. 子どもあり()人

(8) 持ち家の状況

1. 持ち家(戸建住宅)	2. 持ち家(集合住宅)	3. 賃貸	4. その他
--------------	--------------	-------	--------

2. あわら市での暮らしについてお聞かせください。

(1) あなたはあわら市(旧芦原町または旧金津町)のご出身ですか。

1. 生まれてからずっとあわら市に住んでいる	⇒問2-(6)へ
2. あわら市で生まれ育ったが、一度市外に出た後、またあわら市に戻ってきた	} 問2-(2)~(5)へ
3. あわら市外で生まれ育ち、あわら市に引っ越ししてきた	

(2) 問2-(1)で2または3を選択した方 あなたは直近で何年前にあわら市に戻って(引っ越しして)きましたか。

1. 5年未満	2. 5年~10年未満	3. 10年~20年未満	4. 20年以上
---------	-------------	--------------	----------

(3) 問2-(1)で2または3を選択した方 あなたが直近であわら市に引っ越ししてくる前の居住地はどこですか。

1. 福井県内の他の市町(具体的に:)	市・町
2. 他の都道府県(具体的に:)	都・道・府・県
3. 国外	

(4) 問2-(1)で2または3を選択した方 直近であなたがあわら市に戻って(引っ越しして)きた理由は何ですか。
あてはまるものを優先順位が高い順に最大3つまで選んでください。

1. 就職、転勤、転職	7. 子育て環境上の都合
2. 起業、開業	8. 学校の都合(入学、進学、転校)
3. 結婚または離婚	9. ご自身やご家族の健康上の都合(通院、介護など)
4. 住宅の都合(持ち家の購入など)	10. 生活環境上の都合
5. 定年退職後の帰省または移住	11. その他()
6. 家族、親族と同居または近くに住むため	

(5) 問2-(1)で2または3を選択した方 現在お住まいの場所を選ぶにあたり、どのような点を重視しましたか。
あてはまるものを優先順位が高い順に最大3つまで選んでください。

1. 土地や住宅の価格、家賃	6. 医療・福祉・介護の環境	11. 治安のよさ
2. 物価や公共料金	7. 子育て環境	12. 家族や親族が近くに住んでいる
3. 交通の利便性	8. 子どもの教育環境	13. 市内に土地を所有している
4. 職場や学校までのアクセスの良さ	9. 自然環境	14. 地域に愛着がある
5. スーパーなど周辺施設の充実	10. まち並み、景観	15. その他()

※次のページに続きます

(6) あなたはこれからもあわら市に住み続けたいですか。1つだけ選んでください。

- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. これからも住み続けたい | } 問2-(7)へ |
| 2. どちらかと言えば住み続けたい | |
| 3. 一時的に市外に出て、将来は市に戻りたい | ⇒ 問2-(7)、(9)へ |
| 4. どちらかと言えば市外に移りたい | } 問2-(8)、(9)へ |
| 5. できれば市外に移りたい | |
| 6. わからない | ⇒ 問4へ |

(7) 問2-(6)で1～3を選択した方 あわら市に住み続けたい(戻りたい)理由は何ですか。最大3つまで選んでください。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 安定した収入や職があるから | 6. 子育て、教育の環境が良いから |
| 2. 気候や自然環境が良いから | 7. 医療、福祉、介護サービスが充実しているから |
| 3. 地元のつながりや土地に愛着があるから | 8. 防災・防犯面で安心して暮らせるから |
| 4. 交通の便が良いから | 9. 娯楽やレジャーを楽しむ上で便利だから |
| 5. 買い物などの日常生活が便利だから | 10. その他 () |

(8) 問2-(6)で4～5を選択した方 あわら市外に移りたい理由は何ですか。最大3つまで選んでください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 将来の収入や職に不安がある等 | 6. 子育て、教育の環境が良くないから |
| 2. 気候や自然環境が厳しいから | 7. 医療、福祉、介護サービスが不足しているから |
| 3. 地元のつながりや土地に愛着を感じないから | 8. 防災・防犯面で安心して暮らせないから |
| 4. 交通の便が悪いから | 9. 娯楽やレジャーを楽しむ上で不便だから |
| 5. 買い物などの日常生活が不便だから | 10. その他 () |

(9) 問2-(6)で3～5を選択した方 仮に将来あわら市外に転出する場合、そのきっかけは何だと考えますか。ご自身の考えに最も近いものを1つだけ選んでください。

- | | |
|---------------------------------|--------------------|
| 1. ご自身やご家族の仕事の都合(就職、転勤、転職、起業など) | 7. 子どもの独立(1～3を除く) |
| 2. ご自身やご家族の学校の都合(入学、進学、転校など) | 8. 親からの独立(1～3を除く) |
| 3. 結婚 | 9. 住宅の都合(持ち家の購入など) |
| 4. 定年退職(老後) | 10. わからない |
| 5. 子育ての都合 | 11. その他 () |
| 6. 家族、親族と同居または近くに住むため | |

3. 仕事と住まいに対する意識についてお聞かせください。

(1) あなたが仕事を選ぶ際に重視する項目は何ですか。最大3つまで選んでください。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 給与、賞与等の待遇 | 7. 家庭と仕事とのバランス |
| 2. 自分の専門能力や技能を活かせる仕事 | 8. 社会や地域に貢献できる環境 |
| 3. 自分のキャリアアップが見込める仕事 | 9. 地元であること |
| 4. 労働時間や休日数などの勤務条件 | 10. 特になし |
| 5. 福利厚生が充実 | 11. その他 () |
| 6. 通勤時間が短い、通勤が便利である | |

(2) 仕事と住まいの関係についてどのように考えますか。1つだけ選んでください。

- | |
|--|
| 1. 希望する職種や仕事内容・待遇であれば、居住地にはこだわらない |
| 2. 職種や仕事内容・待遇は重視するが、できれば現在の居住地から離れたくない |
| 3. 現在の居住地から無理なく通える範囲の仕事にこだわりたい |

4. 結婚・出産・子育てに対する意識についてお聞かせください。

(1) あなた自身の結婚についてどう思いますか。 **1つだけ**選んでください。

(既婚の方は1番に○を付けてください)

1. 既婚である	} 問4-(2)~(5)へ
2. 必ず結婚したい(結婚予定を含む)	
3. できる限り結婚したい	
4. できれば結婚したくない	
5. 結婚はしたくない	} 問4-(6)へ
6. どちらともいえない	
⇒ 問5へ	

(2) 問4-(1)で1~3を選択した方 結婚にあたりどのようなことが問題になると思いますか。

最大3つまで選んでください。※既婚の方はご自身が経験した問題をお答えください。

1. 結婚資金、生活資金の確保	5. 親との同居や扶養
2. 結婚生活のための住宅の確保	6. 異性との出会いがない
3. 職業や仕事上の問題	7. 特に問題はない
4. 学校や学業上の問題	8. その他 ()

(3) 問4-(1)で1~3を選択した方 あなたにとって理想とする子どもの数は何人ですか。

理想の子どもの数 () 人

(4) 問4-(1)で1~3を選択した方 出産や子育てにあたり、どのようなことが問題になると考えますか。

最大3つまで選んでください。※子どもがいらっしゃる方はご自身が経験した問題をお答えください。

1. 出産や子育てにお金がかかりすぎる	7. 配偶者やパートナーの協力が不十分
2. 出産や子育てに関する情報が入手にくい	8. 親同士の仲間づくりの機会や交流の場が少ない
3. 安心してお産ができる設備のある病院が少ない	9. 子どもや子ども連れが外出しにくい環境(道路、施設)
4. 保育所、保育サービスが不十分	10. 仕事との両立が困難
5. 幼児教育、学校教育の機会や場が不十分	11. 特に問題はない
6. 出産や子育てに対する職場の理解が不十分	12. その他 ()

(5) 問4-(1)で1~3を選択した方 安心して出産、子育てをするためには、どのような支援が必要だと思いますか。

最大3つまで選んでください。

1. 出産や子育てのための経済的な支援	7. 出産や子育てに対する配偶者やパートナーの協力
2. 出産や子育てに関する情報提供や相談の場の提供	8. 親同士の仲間づくりの機会や交流の場の充実
3. 産婦人科や小児科の医療体制、施設の充実	9. 子どもや子ども連れが安心して外出できる環境づくり
4. 保育所、保育サービスの整備・充実	10. 職場における働きやすい環境づくり
5. 幼児教育、学校教育の整備、内容の充実	11. 特に支援は必要ない
6. 出産や子育てに対する職場の理解	12. その他 ()

(6) 問4-(1)で4または5を選択した方 結婚したくない理由はなんですか。 **最大3つまで**選んでください。

1. 一人のほうが行動や生き方が自由である	5. 異性との交際が自由である
2. 金銭的に余裕が持てる	6. 親など家族との関係を優先している
3. 家族扶養の責任がなく気楽である	7. 仕事を優先している
4. 広い友人関係を保てる	8. その他 ()

※次のページに続きます➡

5. あわら市のまちづくりについてお聞かせください。

(1) あわら市のまちづくりに関して、不足していると感じるものがありますか。最大3つまで選んでください。

- | | | |
|-------------------|----------------|--------------------|
| 1. 住宅、土地 | 8. 医療サービス | 15. 異性との出会いや結婚相談の場 |
| 2. スーパーや商店などの商業施設 | 9. 福祉・介護サービス | 16. 農林業への支援や振興 |
| 3. 娯楽やスポーツ・レジャー施設 | 10. 子育て支援の環境 | 17. 商工業への支援や振興 |
| 4. 電車、バスなどの公共交通 | 11. 子どもの教育環境 | 18. 観光の振興 |
| 5. 水道や道路などの都市基盤 | 12. 防犯・防災・防火対策 | 19. 歴史や自然環境の保全 |
| 6. 支所や集会所などの公共施設 | 13. 環境対策（公害など） | 20. 住民によるまちづくり活動 |
| 7. 公園、緑地 | 14. 雇用の場 | 21. その他（ ） |

6. あわら市における将来の人口減少問題についてお聞かせください。

(1) 市の人口減少や少子・高齢化といった人口減少問題に対して不安はありますか。1つだけ選んでください。

- | | | |
|--------------|-------------|-----------|
| 1. 非常に不安である | 2. 不安である | }⇒問6-(2)へ |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり不安はない | |

(2) 問6-(1)で1または2を選択した方 人口減少問題にどのような不安がありますか。最大3つまで選んでください。

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 人がいなくなり地域の活力が低下する | 8. バスなどの公共交通が廃止されて不便になる |
| 2. 働き手がいなくなり産業や経済が落ち込む | 9. スーパーや商店がなくなり、日常生活に支障がでる |
| 3. 水道や道路など都市基盤の維持管理が不十分になる | 10. 公共料金が高くなる |
| 4. 医療・介護・福祉サービスが行き届かなくなる | 11. 農林業の担い手が不足し、田畑や森林が荒廃する |
| 5. 年金など社会保障制度が立ち行かなくなる | 12. 祭りや行事が廃止され、地域の歴史文化が途絶える |
| 6. 子育て支援のための環境や教育機関がなくなる | 13. 災害が起きた時の避難・救援体制が不足する |
| 7. 空き家が増加して地域がさびれていく | 14. その他（ ） |

(3) 人口減少問題に対応するためにどのような取組が必要だと思いますか。最大3つまで選んで下さい。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 地域産業の振興 | 11. 医療・介護・福祉サービスの充実 |
| 2. 正規雇用化の推進などの雇用対策 | 12. 行政コストの効率化や公共施設の有効活用 |
| 3. 企業誘致 | 13. 仕事と生活の調和（ワークライフバランス） |
| 4. 移住を希望する人たちの受入体制の強化 | 14. 地域コミュニティづくり |
| 5. 住宅面の支援 | 15. 移動しやすい交通環境の整備 |
| 6. 若い世代の就職支援 | 16. コンパクトなまちづくり |
| 7. 結婚、出産、子育ての切れ目のない支援 | 17. 観光振興を通じた市外との交流の推進 |
| 8. 異性との出会いや結婚相談の場の充実 | 18. 特に取組の必要はない |
| 9. 子育て支援の充実 | 19. その他（ ） |
| 10. 学校教育環境の充実 | |

7. あわら市の暮らし、子育て、まちづくり等に関するご意見、ご要望等についてご自由にお書きください

*** アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました ***